

天井埋込形コンパクト4方向吹出 据付工事説明書

PJF012D513

202106





本説明書は、室内ユニットの据付け方法を記載してあります。
電気配線(室内ユニット)は、電気配線工事説明書をご覧ください。リモコンの取付け方法は、リモコン付属の説明書をご覧ください。
ワイヤレスキットの取付け方法は、ワイヤレスキット付属の説明書をご覧ください。

室外ユニットの据付け方法、電気配線（室外ユニット）及び冷媒配管工事方法は、室外ユニットの付属の説明書をご覧ください。
また、故障診断は、室内ユニットの結線銘板をご覧ください。本室内ユニットは必ずパネルを取付けてご使用ください。

また、故障診断は、室内ユニットの箱銘銘板をご覧ください。本室内ユニットは必ずパネルを取り付けてご使用ください。
この室内ユニットは、日本国内用に設計されているため海外では使用できません。また、海外においてはアフターサービスもできません。
This product is designed for use only in Japan and cannot be used in any other countries. No servicing is available outside of Japan.

安全上のご注意

- 据付け事とは、この「安全上のご注意」をよくお読みの上確実に行ってください。
- この指示に注意事項は、**【A警告】**、**【B注意】**に区分けしています。誤った据付けをした時に、死亡や重傷等の重大な結果に結びつく可能性が大きいものを特に**【A警告】**の欄にまとめて記載しています。しかし、**【B注意】**の欄に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結び付く可能性があります。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ここで使われる「図記号」の意味は右のとおりです。  絶対に行わない  必ず指示に従い行う
- 据付け工事完了後、運転転行を行い、異常がないことを確認するとともに、取扱説明書にそって、「安全上のご注意」や正しい使用方法・お入りの仕方（エアフィルターの清掃、運転転換の仕方、温度調節の仕方など）をお客様に説明してください。
- この据付け説明書は取扱説明書と共にお客様で保管いただくように依頼してください。また、お使いになる方が代わる場合は、新しくお使いになる方に取扱説明書などをお渡しいただくよう依頼してください。

警告

- 据付けは、お買い上げの販売店又は専門業者に依頼する。
ご自分で据付け工事をした場合があると、水漏れや感電、火災、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
 - 据付け工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付けに不備があると破裂・ケガの原因となり、また水漏れや感電・火災などの原因になります。
 - 小部屋に据付ける場合は万一冷媒が漏れても、限界温度を超えない対策をする。(JRA GL-13)
限界温度を超えない対策については、販売店と相談して据付ける。万一、冷媒が漏洩して限界温度を超えると酸欠事故の原因になります。
 - 設置工事部品は必ず付属品および指定の部品を使用する。
当社指定の部品を使用しない、室内ユニット落下、水漏れ、火災、冷媒などの原因になります。
 - 作業中に冷媒が漏れた場合は換気をする。
冷媒が火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
 - 据付けは、重量に十分耐える所に確実に行う。
強度が不足している場合は、室内ユニットの落下などにより、ケガの原因になります。
 - 台風などの強風、地震に備え、所定の据付け工事を行う。
据付け工事に不備があると、転倒などによる事故の原因になります。
 - 室内ユニットの設置や移動の場合、冷凍サイクル内に指定冷媒以外の空気などを入れない。
空気などが混入すると冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
 - 電気工事は電気工士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び据付説明書に従って施工し、必ず専用
回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
 - 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続が固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
 - 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災、感電などの原因になります。
 - 据付け工事完了後、冷媒ガスが漏れていないことを確認する。
冷媒が室内に漏れて、フレア・ガス・スタートアップ・ロケの火気に触れると有毒ガスが発生する原因になります。
 - 配管、フレアナット、工具はR32用またはR410A用を使用する。
既存 (R22) の部材を使用すると、機器の故障と同時に冷凍サイクルの破裂などの重大な事故の原因になります。
 - フレアナットは、トルクレンチで指定の方法で締付ける。
フレアナットの締め付け過ぎがあると、長期経過後フレアナットが割れ冷媒漏れの原因になります。
 - ドレン配管はイソオクタン系等有毒ガスの発生する排水口に直接入れない。
室内に有毒ガスが侵入し、中毒や爆発火災に至る恐れがあります。また、室内機を腐食させ、故障や冷媒漏れの原因になります。
 - 据付け作業では圧縮機を運転する前に確実に冷媒配管を取付ける。
冷媒配管を取付けておらず、サービスパンプ開放状態で圧縮機を運転すると、空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
 - ポンプダウン作業中は、サービスパンプを閉じた後配管を外す前に圧縮機を停止する。
圧縮機を運転したままサービスパンプ開放状態で冷媒配管を外すと空気などを吸引し、冷凍サイクル内が異常高圧になり、破裂、ケガなどの原因になります。
 - オプション部品は、必ず当社指定の部品を使用する。また取付けは専門業者に依頼する。
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。
 - 改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
 - エアコンを移動再設置する場合は、販売店または専門業者に相談する。
据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
 - エアコンの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFFする。
点検・修理にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
 - バネルやガードを外した状態で運転しない。
機器の回転物、高温部、高電圧部に触れると、巻き込まれたり、やけどや感電によるケガの原因になります。
 - 元電源を切った後に電気工事を行う。
感電、故障や動作不良の原因になります。












①据付け前に

- 据付けはこの据付説明書に従って正しく行ってください。
●次の項目を確認してください。
- | | | |
|----------|-------------|------|
| ○機種・電源仕様 | ○配管・配線・小物部品 | ○付属品 |
|----------|-------------|------|

室内ユニットを移動させるときは吊金具(4ヵ所)を持ち、他の部分(特に冷媒配管、ドレン配管および樹脂部品)には、力を加えないでください。

付属品

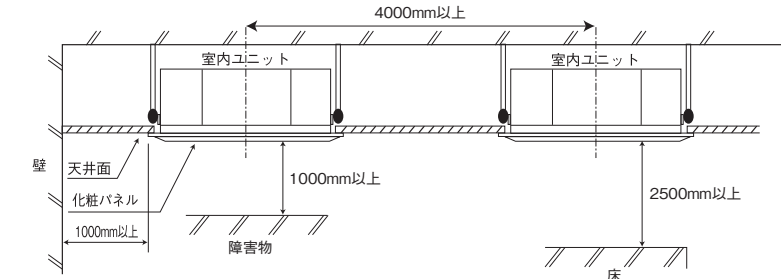
室内ユニット吊込み用		冷媒配管用				ドレン配管用		
平座金 (M10)	レバレッジ 及び 平座金仮固定	パイプ カバー(大)	パイプ カバー(小)	バンド	パイプ カバー(大)	パイプ カバー(小)	ドレン ホース	ホース クランプ
								
8 個	1 個	1 個	1 個	4 本	1 個	1 個	1 個	1 個
吊りボルト用	室内ユニットの 位置調整及び吊り 込み時の補助用	ガス管 断熱用	液管 断熱用	パイプ カバー 固定用	ドレン ソケット 断熱用	ドレン ソケット 断熱用	ドレン配管 接続用	ドレン ホース 取付け用

②室内ユニットの据付け場所の選定

- ① 据付け場所は、下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
- ・ 冷風または温風が十分に行きわたる所。
 - ・ 据付け高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
 - ・ 据付け高さは4m以内としてください。センサー感度が鈍くなり、検知しにくくなります。
 - ・ 据付け・サービス時の作業スペースが確保できる所。
 - ・ ドレン排水が確実にできる所。ドレン勾配のとれる所。
 - ・ 吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
 - ・ 侵入外気の影響のない所。
 - ・ 直射日光の当たらない所。
 - ・ 周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80％以下の所。
- 〔 上記条件以上はJIS露点条件(室内:27℃/78%RH)にて試験を行い、不具合のないことを確認しておりますが、室内ユニット周囲が上記条件以上の高温多湿雰囲気の状態で運転すると水滴が落下する恐れがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合は、室内ユニットの全ておよび配管、ドレン配管にさらに10~20mmの断熱材を取り付けてください。〕
- ・ テレビ、ラジオより1m以上離れた所。(映像の乱れや雑音が生じることがあります。)
 - ・ 室内ユニット真下より食品・食器やパソコン・サーバー、医療機器など濡れて困るものを置かない所。
 - ・ 調理器具が発する熱の影響を受けない所。
 - ・ フライヤーの真上など油・粉・蒸気などを直接吸込まない所。
 - ・ 蛍光灯、白熱灯よりできるだけ離れた所。
- ワイヤレス機種の場合、ワイヤレスリモコンでの正常な操作ができなくなることがあります。
- ② 据付けよりとする場所が室内ユニット重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら桟、桁等で補強して据付け作業を行ってください。強度不足の場合は、室内ユニット落下によるケガの原因になります。
- ③ ワイヤレス機種を2台以上据付ける場合は、混信による誤動作を防止するため室内ユニット間を6m以上離してください。
- ④ 室内ユニットを隣接して設置する場合は、室内ユニット間距離を4m以上離して設置してください。

室内ユニット据付けスペース

- 室内ユニットー壁、室内ユニットー室内ユニット間など、間隔がとれない場合は、そちら側の吹出口を遮風しショートサーキットしないことを確認してください。
- 据付け高さは2.5m以上としてください。

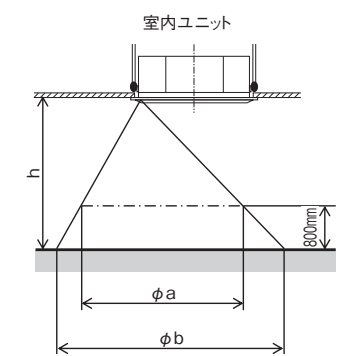


埋設配管途中に配管継手がある場合は、接続ヵ所の点検が可能なように点検口などを設けてください。

吹出パターンの設定

- 部屋の形や据付位置に最適な吹出方向を4方向・3方向・2方向から選定してください。(1方向はできません。)
- 吹出口数を変更する場合は、別売の遮風材を手配してください。
- 2方向・3方向吹出の場合は風量「弱」での使用は避けてください。
- 高温・多湿環境での2方向吹出は行ないでください。(結露・水漏れの原因になります。)
- 吹出ルーバの上下位置の設定などによりさまざまな吹出パターンが設定できます。設定方法は取扱説明書をご覧ください。

人感センサ検知範囲の目安



天井高さ	h [m]	2.7	3.5	4.0
検知範囲①	ϕa [m]	約 4.5	約 6.4	約 7.6
検知範囲②	ϕb [m]	約 6.4	約 8.3	約 9.5

⚠ 注意

⚠ 注意

- アース（接地）を確実に行う。

 - アース線は、ガ管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。
 - 漏電遮断器は必ず取付ける。
漏電遮断器が取り付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。
 - 正しい容量の安価遮断するブレーカ（漏電遮断器、手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。
 - 正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
 - 可燃性ガスの漏れる恐れのある場所への設置は行わない。
万一ガスが室内ユニットの周囲に漏ると、発火の原因になることがあります。
 - 腐食性ガス（亜硫酸ガスなど）、可燃性ガス（シンナー、ガソリンなど）の発生、滞留の可能性のある所、スプレー類がかかる所、揮発性引火物を取り扱う所での据付け、使用は行わない。
熱気、腐食、プラスチック部品の破損などの原因になることがあります。また可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
 - 工事、点検、メンテナンス作業のための規定のスペースを確保してください。
スペースが不足する場合は、設置場所からの転落によるケガの原因になることがあります。
 - 洗濯室など、水の掛かる所では使用しない。
室内ユニットは水の浸入に対する保護はしてありません。水が掛かると感電、火災などの原因になることがあります。
 - 食品・動植物、精密機器・美術品の保存など特殊用途には使用しない。
保存物の品質低下などの原因になることがあります。
 - 病院、通信事業所などの電磁波を発生する機器、高周波の発生する機器の近くでは据付け、使用しない。
インバータ機器、自家発電機、高周波医療機器、無線通信機器の影響によるエアコンの誤作動や故障の原因になったり、エアコン側から医療機器あるいは通信機器へ影響を与え人体の医療行為を妨げたり、映像放送の乱れや雑音など弊害の原因になることがあります。
 - 直射日光の当たるところにリモコンを設置しない。
リモコンの故障や変形の原因になることがあります。

次の場所への据付けは避ける。

 - 可燃性ガスの漏れる恐れがある所
 - 硫黄系ガス・塩素系ガス・酸・アルカリ・アンモニアなど、カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
 - 機器に影響する物質の発生する所
 - 油の飛沫や蒸気が多い所（調理場、機械工場など）
 - 高周波を発生する機械を使用する所
 - 海浜地区等塩分が多い所
 - 煙突の煙がかかる所
 - カーボン繊維や金属粉、パウダーなどが浮遊する所
 - 車庫・船舶等移動するものへの設置
 - 化粧品、特殊なスプレーを頻繁に使用する所
 - 積雪の多い所
 - 標高1000m以上の所

性能を著しく低下させたり、部品が腐食、破損したりする原因になることがあります。

次の場所への据付けは避ける。（機種により異なる制限があるのを、その指示に従ってください。）

 - 吸込口、吹出口の風の障害物がある所
 - 強度が不十分で振動が発生する所
 - ワイヤレス機器の場合、受光部と直接太陽光や強い光が当たる所
 - 高周波に影響される機器のある所（TV およびラジオ等の近傍）
 - ドレンの排水がとれない所
 - 人感センサー搭載パネルは次のような場所への設置はしないでください。誤検知・検知不能・特性劣化による恐れがあります。
 - 長時間振動が加わる状態
 - 静電気や強い電磁波のある場所
 - 長時間高温、多湿になる場所
 - 塵埃の多い場所、レンズ面に汚れ及び損傷を与える恐れのある場所

性能や機能等に影響をおよぼす原因になります。

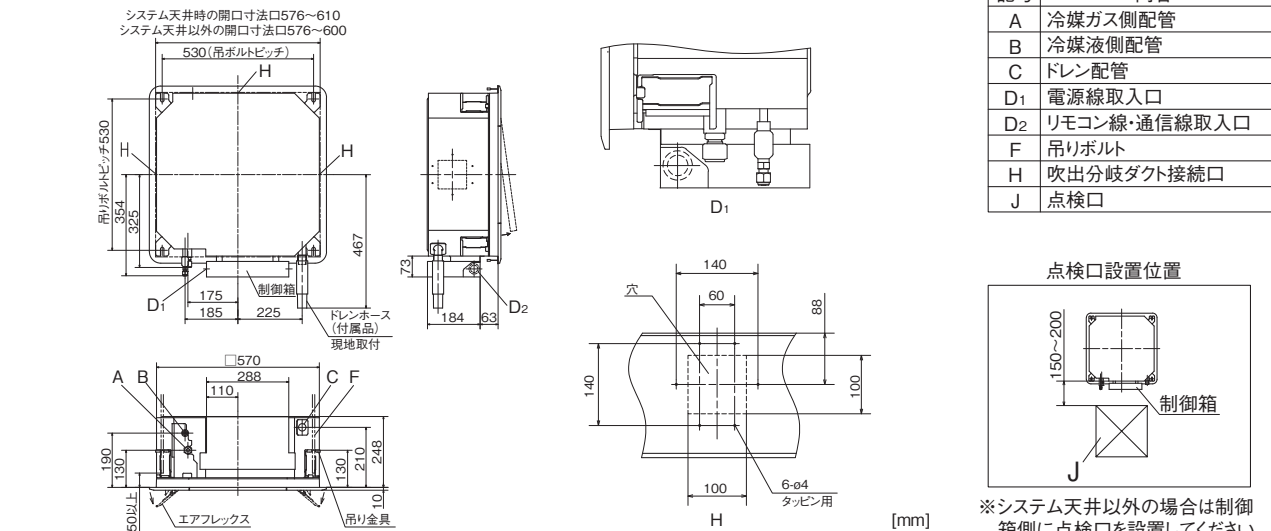
 - 室内ユニットの下部には、濡れて困るものは置かない。
湿度が80％以上の時や、ドレン排水が詰まった場合に、室内ユニットから露が滴下し損害が生じることがあります。
 - 長期使用で傷んだままの据付け台を使用しない。
傷んだ状態で設置すると室内ユニットの落下につながり、ケガなどの原因になることがあります。
 - 室内ユニット近くで溶接作業を行う場合は十分注意し、室内ユニット内へのスパッタの進入を防止する。
溶接作業時などに発生するスパッタが室内ユニットにあたった場合、ドレンパンなどに損傷（ピンホール）をあたえ、水漏れなどの原因になることがあります。室内ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしておく、覆いなどにより必ずカバーをしてください。
 - ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管する。
本書に従って施工しない場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。
 - GHP（ガスヒートポンプ）の場合、室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しない。
室内に有毒ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。
 - 冷暖気工事後には窒素ガスによる気密試験を行い、漏れないことを確認してください。
万一、狭い部屋に冷暖ガスが漏洩して限界濃度を超えると事故発生の原因となることがあります。
 - ドレン配管は下り勾配（1/100以上）とし、途中山越えやトラップを作らない。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けない。
試運転時にドレン排水が確実に流れていることを確認する。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保する。
 - 冷暖配管の断熱は経路はしっかりと確実に行う。
不完全な断熱施工を行うと配管など表面が結露して、露たなどを発生し、天井・床その他、大切なものを濡らす原因になることがあります。
 - 室外ユニットは、小動物のすみかになるような場所に設置しない。
小動物が侵入して、内部の電気部品に触れると、故障や発煙・発火の原因になることがあります。
また、お客様に周辺をきれいに保つことをお願いしてください。
 - 製品の搬搬は十分注意して行う。
20kg以上の製品は原則として2人以上で行ってください。PPパネルなど所定の位置以外をもって製品を動かさないで下さい。
素手フィンなどに触れるとケガをする場合がありますので保護具をご使用ください。
 - 梱包材の処理は確実に行う。
梱包材にキズなどの金属あるいは、木片などを使用していますので放置状態にしますとケガをすることがあります。
 - フィルタをはずしたまま運転しない。
内部に油・ゴミなどが詰まり、故障の原因になることがあります。
 - 濡れた手でスイッチを操作しない。
感電の原因になることがあります。
 - 運転中の冷暖配管を素手で触れない。
運転中の冷暖配管は流れる冷媒の状態により低温と高温になります。素手で触れると凍傷や、やけどになることがあります。
 - エアコンを水洗いしない。また、除菌剤等のスプレー類をエアコンに直接吹きかけない。
感電や部品が腐食したりする原因になることがあります。
 - 運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。
 - 電源ブレーキによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。



③ 据付け準備

- 吊りボルト長さが長くなる場合は耐震補強を実施してください。
- システム天井（グリッド天井・ラン天井）の場合
吊り長さ（吊りボルト長さ）500mm以上又は天井ふところ高さ700mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
- 強度が十分にある天井面に設置され直接スラブから吊り下げる場合
吊り長さ（吊りボルト長さ）1000mm以上の場合に耐震ブレースを設置してください。
- 吊りボルト・ナット・バネ座金（M10 or M8）を4組順地に手配してください。

天井開口穴・吊りボルトピッチ・各配管の位置



④室内ユニットの据付け

作業手順

- このユニットは、システム天井用に設計されています。必要ならば、一時的にTバーを取り外して、ユニットを据付けてください。
 - もし、システム天井以外に据付けの場合は、制御箱側に点検口を設置してください。
 - 吊りボルト位置 (530mm×530mm) を決めてください。
 - 吊りボルトは、4本使用し、1本当り500Nの引抜き荷重に耐えられるよう固定してください。
 - 吊りボルト長さは、天井面より50mm程度としてください。
 - 吊りボルトの下側ナット(4ヶ所)は、天井面から130mm程度に仮止めてください。
 - 吊りボルトの上側ナット(4ヶ所)は、室内ユニット吊り込み及び高さ調整時に支障のないよう、下側ナットから十分距離を取った位置に仮止めてください。
 - 吊りボルトの上側ナットと上側座金(各4ヶ所)を下側ナットから十分な距離をとった状態で、座金仮固定材(※1)を吊りボルトに挿こんでください。上側座金が落下できません。
 - 室内ユニットを吊り込んでも大丈夫です。
 - 室内ユニット吊り込み後、付属のレベルゲージ(※2)を室内ユニットの吹出口に取り付け、室内ユニットの吊り込み高さを調整してください。高さ調整は上側ナット(4ヶ所)を緩めた状態で、下側ナット(4ヶ所)で調整してください。室内ユニット吊り金具(4ヶ所)が下側ナット、平座金にガタなく接していることを確認してください。
 - 座金仮固定材(4ヶ所全て)を外してください。
 - 室内ユニットの水水平を確認してください。水水平は水準器または透明ホースに水を入れたものを使用して確認してください。(室内ユニットの両端端での高さ許容差は3mm以内)
 - 吊りボルトの上側ナット(4ヶ所)を締めてください。

室内ユニットの養生

- パネルをしばらくの間取付けられない場合、または室内ユニットを据付け後に天井材を貼る場合は、梱包材(天面ダンボール)を使用して、室内ユニットを養生してください。

室内ユニット据付け時のお願い

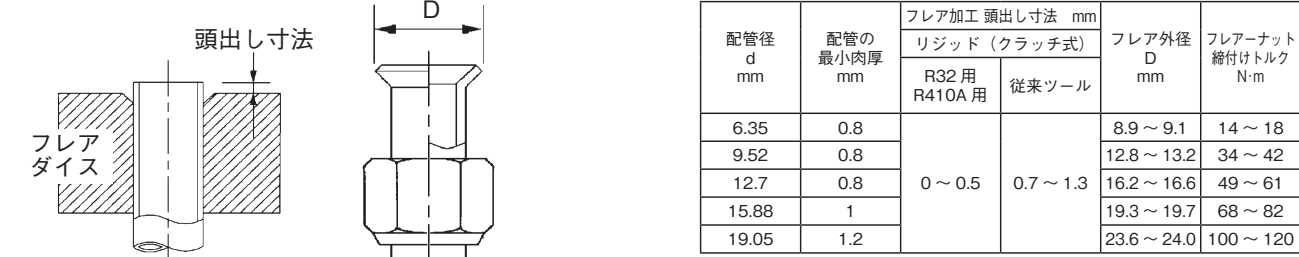
- 上側ナットで高さ調整を行わないでください。室内ユニットに無理な力がかかり変形し、パネルが組付けできなかったり、ファン干渉音が発生することがあります。
- 室内ユニットは必ず水平に据付け、室内ユニット下面と天井面の高さを正しく設置してください。据付けに不備があると風漏れ、結露・水漏れ、騒音の原因になります。
- パネルと天井面、およびパネルと室内ユニットとの接触部は確実に密着させてください。隙間があると風漏れ、結露・水漏れの原因になります。



⑤冷媒配管

冷媒配管時の注意事項

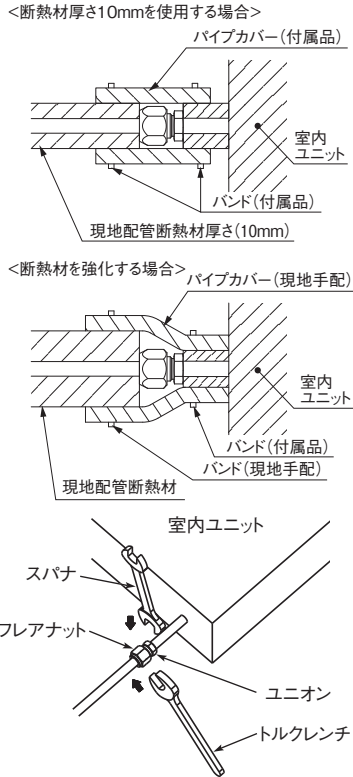
- 冷媒配管は、新規配管をご使用ください。フレアナットは、製品付属のもの又は JIS B 8607 2 種適合品をご使用ください。他のフレアナット(1種)を使用すると冷媒漏れの原因となります。
- 既設配管再利用の可否及び洗浄方法については、室外ユニットの据付説明書又はカタログ・技術資料で確認してください。
- 1) 再利用する場合、フレアナットは流用せず室内ユニットに付属のもの又は JIS B 8607 2 種適合品を使用してください。
- 2) 再利用する場合、部分的に交換した新しい配管に、R32 用または R410A 用のフレア加工をしてください。



- 冷媒配管は、リン脱酸銅合金継目無銅管(C1220T、JISH 3300)をご使用ください。また管の内外面は美麗であり、使用上有害な硫黄、酸化物、ゴミ、切粉等(コンタミ)の付着がないことを確認してください。
- 冷媒配管の内部にコンタミの付着があると冷凍機油劣化などの原因になります。
- 指定冷媒以外は使用しないでください。指定冷媒以外を使用すると、冷凍機油劣化などの原因になります。また空気などが混入すると、異常高圧になり、破裂などの原因になります。指定冷媒は室外ユニットの形式ラベルをご覧ください。
- 据付けに使用する配管は屋内に保管し、両端とろう付けする直前までシールしてください。冷媒回路内に埃、ゴミ、水分が混入すると、油の劣化・圧縮機の故障の原因になります。
- 工具は R 3 2 用または R 4 1 0 A 用の工具を使用してください。

作業手順

1. 室内ユニットのフレアナット及びキャップを外してください。
 - ※ 室内ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで 2 丁掛けで外してください。(このときガスが出ることがありますが、異常ではありません。)
- フレアナット飛びに注意してください。(内部に圧力がかかっている場合があります。)
2. 液管・ガス管をフレア加工し、右図に示すように冷媒配管を接続してください。
 - ※ 配管の曲げは 4 D 以上の大きな半径で行い、曲げなおしを行わないでください。
 - また配管をねじったり、2/3D 以下につぶしたりしないでください。
 - ※ フレア接続は、以下のように行ってください。
 - ・フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで 3 ~ 4 回転ねじ込み、2 丁スパナ掛けで表の締付力で締めてください。
3. 室内ユニットのフレア部は、ガス漏れチェック後、右図に示すように断熱材をかぶせ、バンドでしっかりと締付けてください。
- ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。
 - ※ 配管は断熱しないと結露し水漏れします。
- ガス側配管の断熱材は耐熱 120℃ 以上のものを使用してください。
- 高湿度雰囲気で使用の場合は設置環境に合わせて、冷媒配管の断熱を強化してください。強化しない場合は断熱材表面に結露することがあります。
4. 冷媒は室外ユニットに充填されています。室内ユニットおよび接続配管分の冷媒追加量については室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。



注意
同一締付けトルクでも、ユニオンのねじ部に冷凍機油を塗布した場合は、ねじ部摺動摩擦係数が下がることにより、軸方向分力が増加してフレアの応力腐食割れの原因となることがあるため、ユニオンねじ部、又はフレア外面への冷凍機油塗布は推奨しません。冷凍機油を塗布する場合は、フレア内面へのみとしてください。

⑥ドレン配管

ドレン配管時の注意事項

- ドレン工事は、据付説明書に従って確実に排水するように配管してください。
 - 記載に従って施工しない場合、屋内に浸水し、家財などを濡らす原因になることがあります。
 - ドレン工事は付属のドレンホースを必ず使用してください。使用しないとドレンソケットに力がかかり破損し、水が漏れることがあります。
 - ドレン配管はイオウ系ガスなど有害ガス及び可燃性ガスが発生する排水溝には、入れないでください。
 - 室内に有害ガス及び可燃性ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になることがあります。また熱交換器の腐食、異臭の原因になります。
 - 接続部から水漏れのないように確実に施工してください。
 - 水漏れが起こらないように、断熱工事を確実に行ってください。
 - 施工後、ドレンが排水されていることを、室内ユニットのドレン口及びドレン配管最終出口部で確認してください。
 - ドレン配管は下り勾配(1/100 以上)とし、途中山越えやトラップを作らないでください。また、ドレン配管にエア抜きは、絶対に設けないでください。
- 試運転時にドレン排水が確実に行われていることを確認してください。また、点検・メンテナンス作業のためのスペースを確保してください。

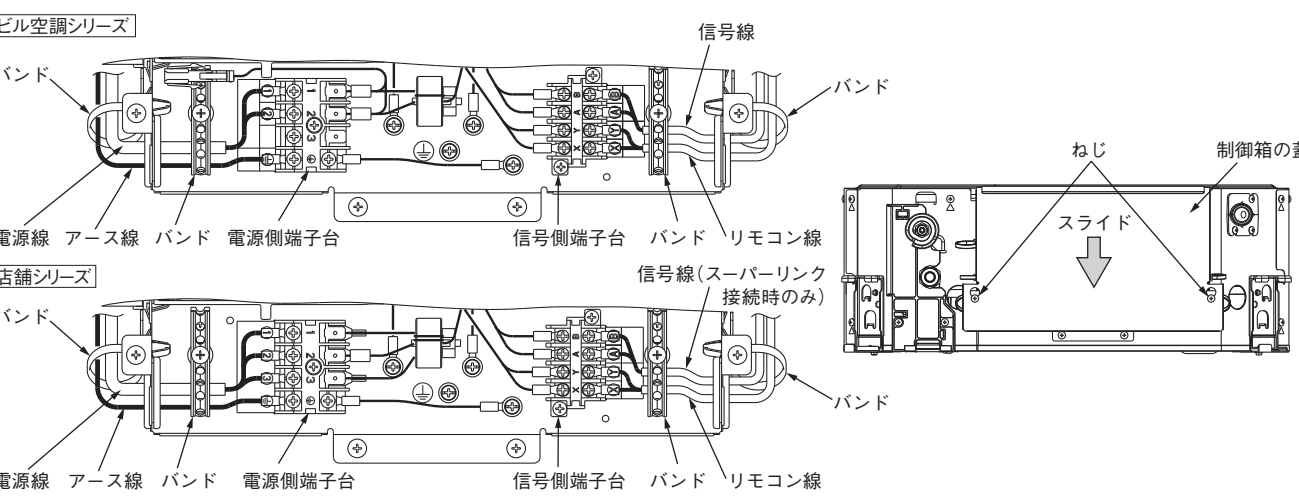
⑥ドレン配管のつづき

ドレンポンプ運転方法

- 電気配線工事が完了している場合
ドレンポンプの運転がリモコン(ワイヤード)操作により可能です。運転操作方は、電気配線工事説明書の「ドレンポンプ運転操作」をご覧ください。
- 電源が供給されている場合
室内ユニット基板上の SW7-1 を ON にし、かつ、基板上的コネクタ CNB を抜いた後、電源 ON(端子台①、②へ AC200V)すると、ドレンポンプのみ連続運転します。ドレン排水確認後は、必ず SW7-1 を元の状態(OFF)に戻し、かつ、基板上的コネクタ CNB を差し込んでください。
- 電源が供給されていない場合
ドレンポンプ試運転用チェッカー(別売)でドレンポンプを運転することが可能です。操作方はドレンポンプ試運転チェッカーに付属の取扱説明書をご覧ください。

⑦電気配線取出位置および電気配線接続

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用してください。
 - 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定してください。
 - 電源線と信号線は同一経路を通さないようにしてください。誤動作や故障の原因になることがあります。
 - D 種接地工事を必ず行ってください。
 - 電気配線工事の詳細は、付属の電気配線工事説明書をご覧ください。
1. 室内ユニット本体の制御箱の蓋のねじ(2本)を緩めてください。
 2. 制御箱の蓋を図の矢印方向にスライドさせて、取外してください。
 3. 配線を制御箱内に入れ、端子台に確実に接続してください。
 4. 下図のように配線をバンドで固定してください。
 5. 配線を噛み込まないように制御箱の蓋を取り付け、ねじ(2本)で締め付けてください。



⑧パネルの取付け

- パネルは、電気配線工事完了後に、室内ユニットに取付けてください。
- パネルの取付け方法は、パネル付属の据付説明書をご覧ください。

⑨室内ユニット据付け工事完了後のチェック項目

- 室内ユニット・パネル据付け工事、電気配線工事完了後、下記項目についてチェック願います。

チェック項目	不良の場合	チェック欄
室内外ユニットの取付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレン排水はスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は室内ユニットの銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
配線の太さは仕様通りですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吹出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

⑥ドレン配管

ドレンソケットとドレンホースの接続

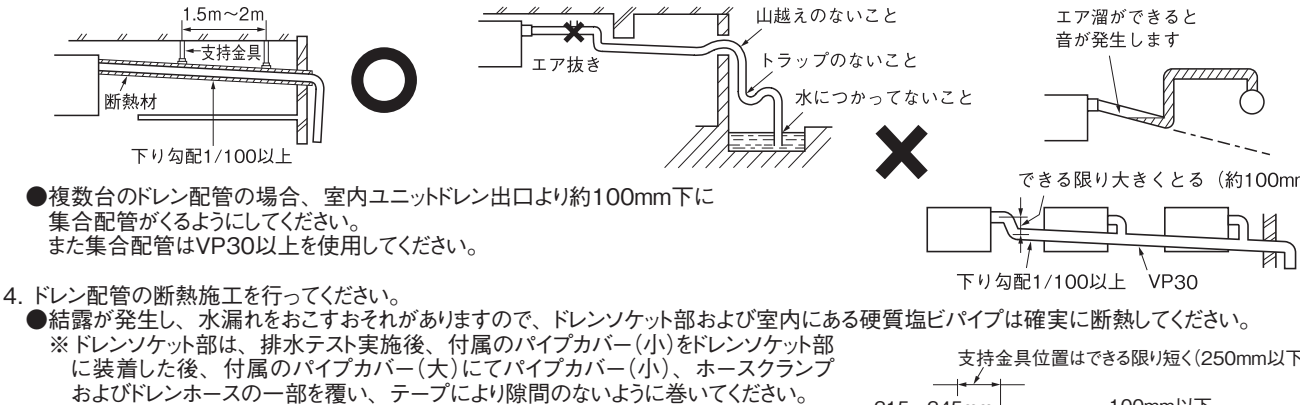
- ドレンソケットの周囲温度が 50℃ 以上となる場合は、ドレンソケットとドレンホースを接続してください。
 - 接着剤とホースクランプは併用しないでください。水漏れの原因となります。
- 〈ホースクランプを使用する場合〉
1. 付属のドレンホースの軟質側にホースクランプを通し、ドレンソケットの段差部まで確実に挿入してください。その際、ホースクランプのねじが室内ユニットの外側になる位置にし、ボルトが鉛直方向になるようにしてください。
 2. ホースクランプはドレンホースの断熱材に接触する位置で、ねじを締め付けてください。
 3. ねじを数回回転させて締め付けが固くなる位置まで締め付け、それ以上に締め付けしないでください。ねじの締め代の目安は 17 ~ 20mm (参考: 1.2 ~ 1.5N・m) です。

〈接着する場合〉

1. 塩ビ系接着剤を使用し、ドレンホースの軟質側とドレンソケットを接着してください。その際、ドレンホースをドレンソケットの段差部まで確実に挿入してください。
 2. 接着方法は接着剤の使用法に従ってください。
- 接着剤推奨品: 積水化学工業製エスロン No73S、クボタケミックス製タフダイン青
※ フタル酸エステル類が含まれている接着剤は使用しないでください。水漏れの原因となります。
●ドレンホースやドレンソケットの内部に接着剤が流れ込まないようにしてください。

ドレンホースと配管の接続

1. VP25 用継手やエルボー、配管(いずれも現地手配)を接続してください。
 - ※ ドレン管は、市販の硬質塩ビパイプ一般管 VP25 を使用してください。
 - 接着剤は付属のドレンホース内部に流れ込まないようにしてください。
 - 乾燥後、フレキ部に力加わった場合、フレキ部が破損することがあります。
 - ドレンホースは、室内ユニットあるいはドレン配管の据付け時の微小なズレを吸収するためのものです。故意に曲げたり、引っ張って使用された場合は、破損し、水漏れに至ることがあります。
2. ドレン配管を接続する場合、ドレンソケットやドレン配管に力加わらないようにしてください。
- できる限り室内ユニット近傍(現地手配の継手先端から 250mm 以内)でドレン配管を支持してください。
3. ドレン配管は下り勾配(1/100 以上)とってください。不可能場合はドレンアップしてください。途中山越えやトラップを作らないように施工してください。
- エア抜きは絶対に設けないでください。



ドレンアップする場合

- ドレン配管の出口高さは、天井面より 850mm まで高くすることができます。天井内に障害物などがある場合、エルボなどを用いて施工してください。この場合、ドレン配管を立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローすることがありますので、右図寸法内で処理願います。

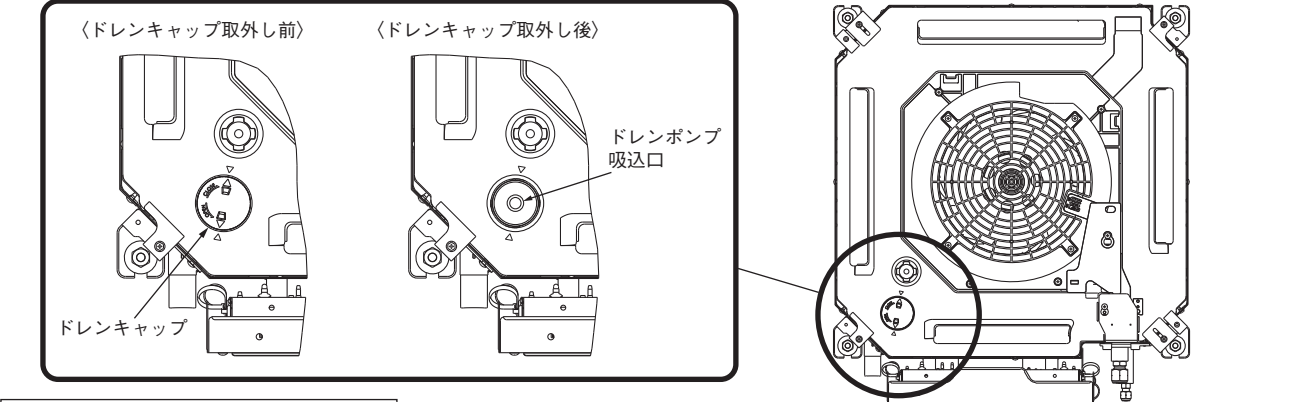
ドレン排水テスト

- ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていることを、接続部および室内ユニットのドレンパン部から水漏れのないことを確認してください。このとき、ドレンポンプのモーター音に異常がないことも確認してください。
 - 暖房期の据付けの際にも必ず実施してください。
 - 新築の場合には天井を張る前に実施してください。
1. 室内ユニットドレンパンの中へ水を約 1000cc 注入してください。注入時は、ドレンポンプなどの電機部品に水をかけないようにしてください。
 2. ドレン排水が確実に行われること、ドレン配管接続部から水漏れのないことを確認してください。
 3. 排水テスト後は、ゴム栓を外して水抜きを行ってください。
- 水抜き確認後は、ゴム栓を元通りにはめ込んでください。ドレン配管の断熱を室内ユニット部まで完全に行ってください。リッドを外して注入した場合は、リッドを装着しなおしてください。
- 吹出口から注水する場合
(1) ねじ 2 か所を外します
(2) つめ部の引っかかりを外して、リッドを外します。
- 冷媒配管取出し部から注水する場合
(1) ねじ 2 か所を外します
(2) つめ部の引っかかりを外して、リッドを外します。

⑩ドレンパン汚れ確認、ドレンポンプ吸込口清掃(メンテナンス)

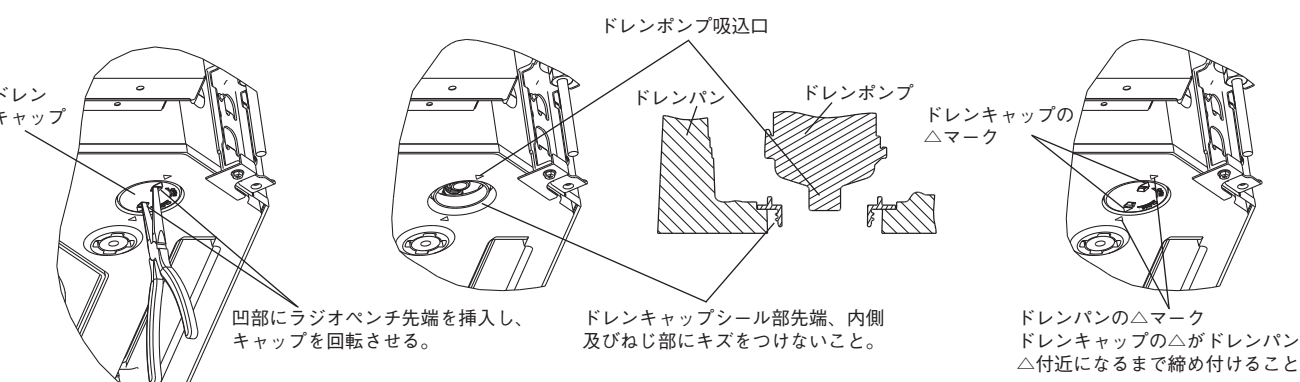
ドレンパン汚れ確認方法

1. パネル据付説明書に従ってパネルを取外してください。
2. ドレンキャップからドレンパンの汚れやドレンポンプ吸込口を確認してください。汚れが多い場合はドレンパンを取外し、清掃してください。



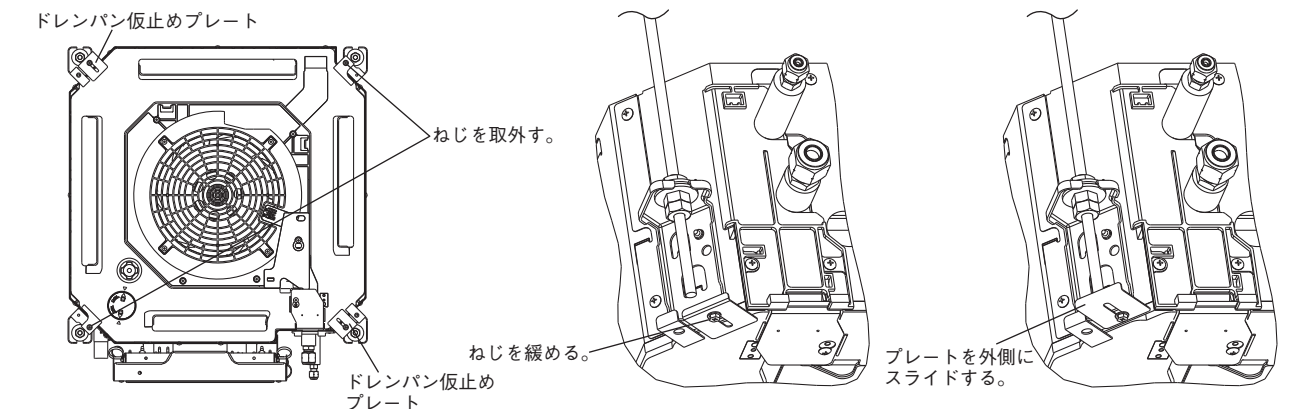
ドレンポンプ吸込口の清掃

- ドレンパンを取外す前、ドレンキャップを取外すことでドレンポンプ吸込口及びその付近の清掃ができます。
 - ドレンキャップを取外す前に、ゴム栓を取外してドレンパン内のドレンを排水してください。
1. ドレンキャップの凹部(2ヶ所)にラジオペンチの先を挿入し、反時計回りに約 1 回転するとドレンキャップを取外せます。
 2. ドレンポンプ吸込口を清掃する場合はプラスチック製の道具を使用してください。金属製の道具を使用するとドレンキャップ取付け部をキズつけ、水漏れの原因になります。
 3. ドレンキャップを取付ける前に、流水で水洗いし、ドレンキャップ内側の異物を取り除いてください。異物が付着したままドレンキャップを取付けると水漏れの原因になります。
 4. ドレンキャップの取付けは、ラジオペンチでドレンキャップの凹部を使用して取付けてください。時計回りに約 1 回転させ、キャップが回転しなくなるまで締め付けてください。キャップが 1 回転以上回転しない場合は正しく取付けられていません。
 - 一度、ドレンキャップを取外し、改めて取付け直してください。
 5. ドレンキャップ締付け後、ドレンキャップの△マークがドレンパンの△マーク付近にあることを確認してください。ドレンキャップの△マークがドレンパンの△マーク付近にない場合は、増し締めしてください。
 6. 取外したゴム栓は確実に装着してください。装着が不完全な場合、結露・水漏れの原因となります。



ドレンパン取外し時の注意事項

- ドレンパンを取外す前に、ドレンパン内のドレンを排水してください。ゴム栓を取外して排水してください。
- ドレンパンは仮止めプレートで仮止めされています。ドレンパン取外ねじ(2個)を取外し、仮止めプレートのねじ(2個)を緩めてください。
- 仮止めプレートはドレンパンの外側にスライドしてください。ドレンパンを取外します。
- ドレンパン取付け時は、仮止めプレートは内側にスライドし、ドレンパンを仮止めしてください。その後、ドレンパン取外ねじ(2個)と仮止めプレートのねじ(2個)を締めてください。また、取外したゴム栓は確実に取付けてください。



パネル据付説明書

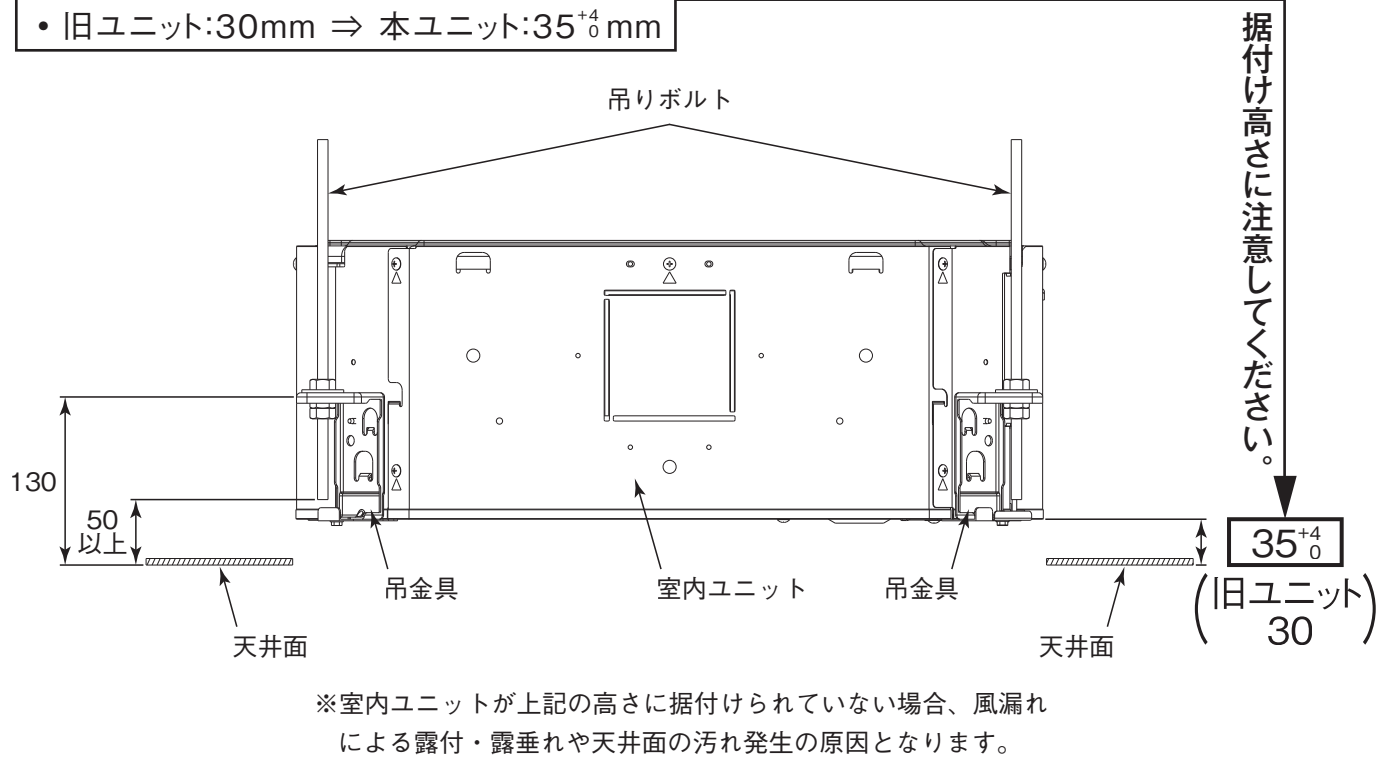
PJF012D502
201808

室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。

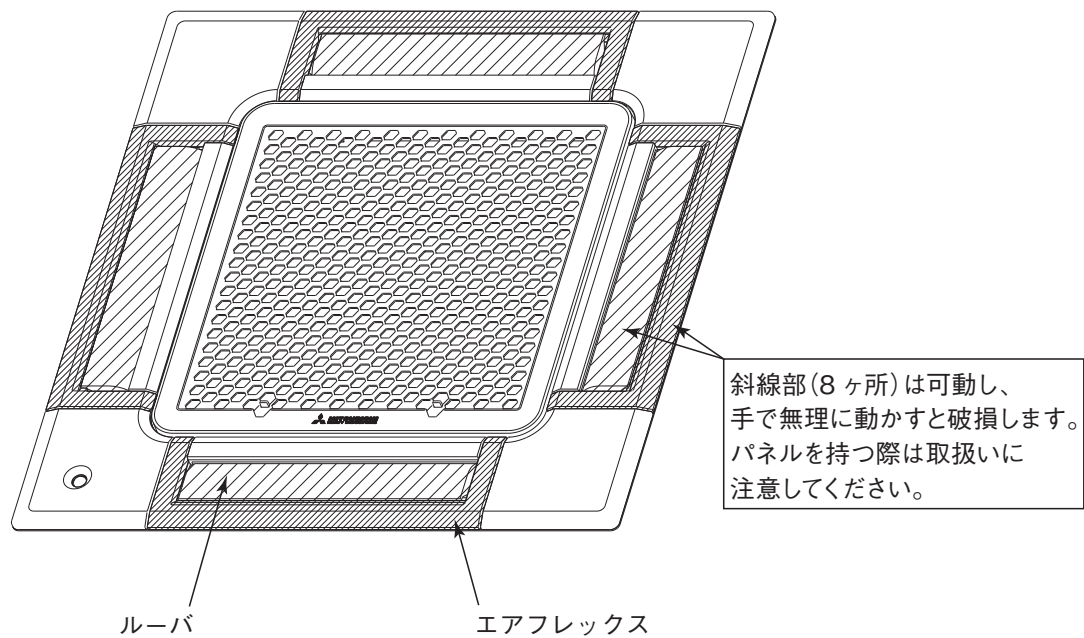
※ご使用前の注意点

- ①室内ユニットの据付け高さに注意してください。
また、本室内ユニットは旧ユニット（従来機）と据付け高さが異なるため、注意してください。

天井面から室内ユニットまでの据付け高さ
・旧ユニット:30mm ⇒ 本ユニット:35⁺⁴₀mm



- ②ルーバおよびエアフレックスは無理に動かさないでください。



警告

- 配線は、確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事をする。
感電、故障や動作不良の原因になります。

機能名称について

機能の名称の意味は下記のとおりです。

エアフレックス：ドラフト防止機能

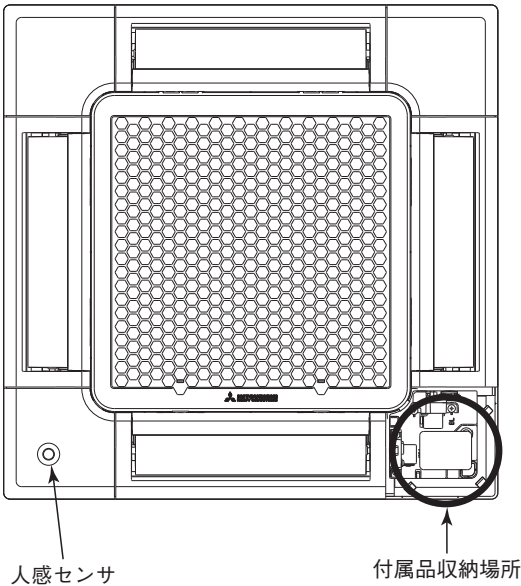
① 据付けの前に

- ・据付けはこの説明書に従って正しく行ってください。
- ・次の項目を確認してください。
 - パネル・リモコンのタイプ
 - 付属品

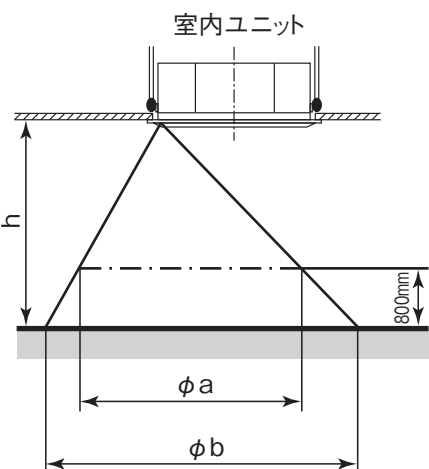
付属品

ボルト		4本	パネル取付け用
ストラップ		4本	コーナリッド落下防止用
グリルフック		1個	グリル落下防止用
ねじ		4本	コーナリッド固定用

注：付属品はコーナリッドを外した位置にあります。



人感センサ検知範囲の目安



天井高さ	h [m]	2.7	3.5	4.0
検知範囲①	φ a [m]	約4.5	約6.4	約7.6
検知範囲②	φ b [m]	約6.4	約8.3	約9.5

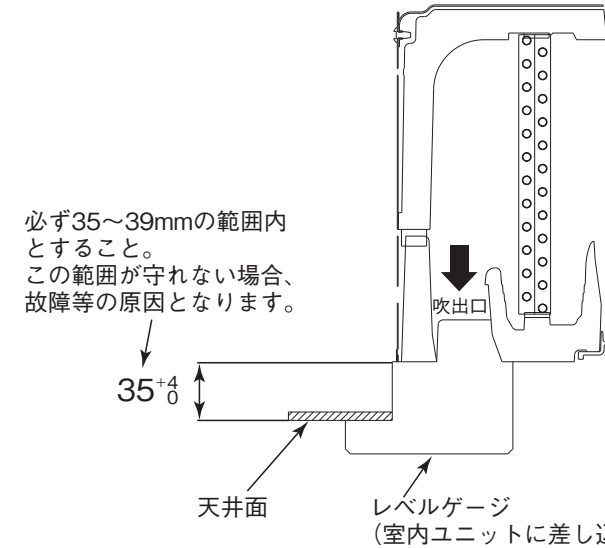
② 室内ユニットの据付け高さの確認

- ・室内ユニットの据付説明書と共にお読みください。
- ・室内ユニットに付属されているレベルゲージで室内ユニット高さ及び天井開口寸法が正しいことを確認してください。
- ・室内ユニットと天井材との取付けレベルを確認してください。
- ・室内ユニット付属のレベルゲージを吹出口にセットし、室内ユニットの吊込み高さを調整してください。
- ・レベルゲージはパネル取付け前に取外してください。

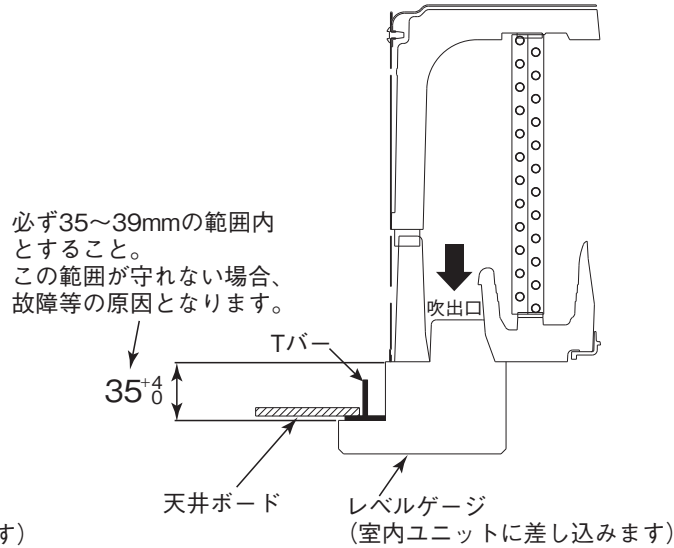
ご注意

室内ユニットと天井材との高さは、パネル取付けの際、パネルに無理な荷重がかからない高さにしてください。
パネルが変形し破損の恐れがあります。

＜システム天井以外の場合＞



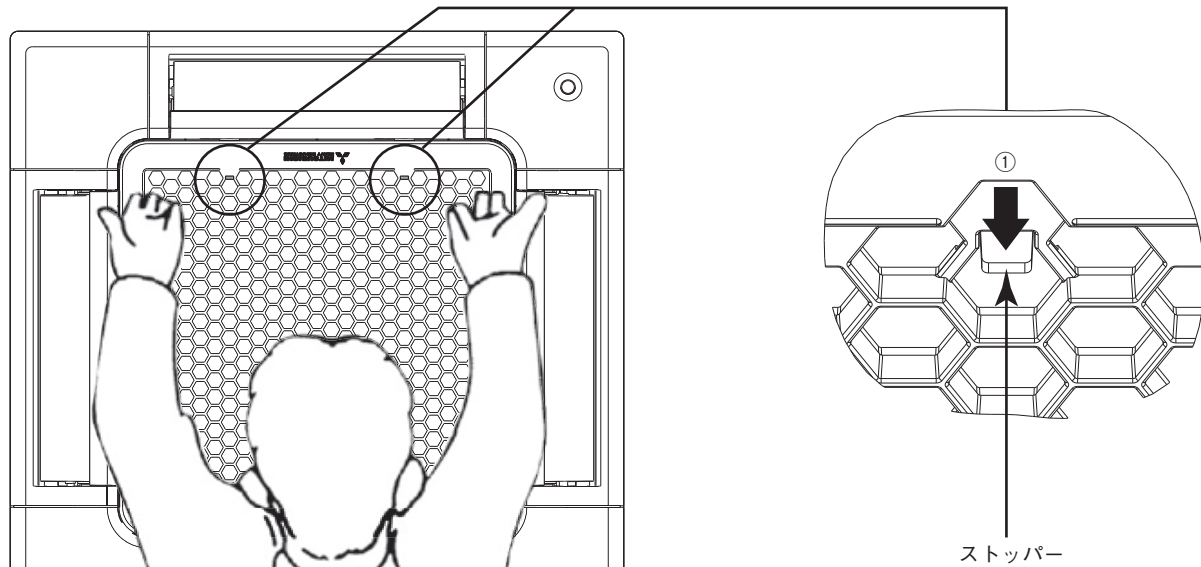
＜システム天井の場合＞



③ 吸込グリルの取外し

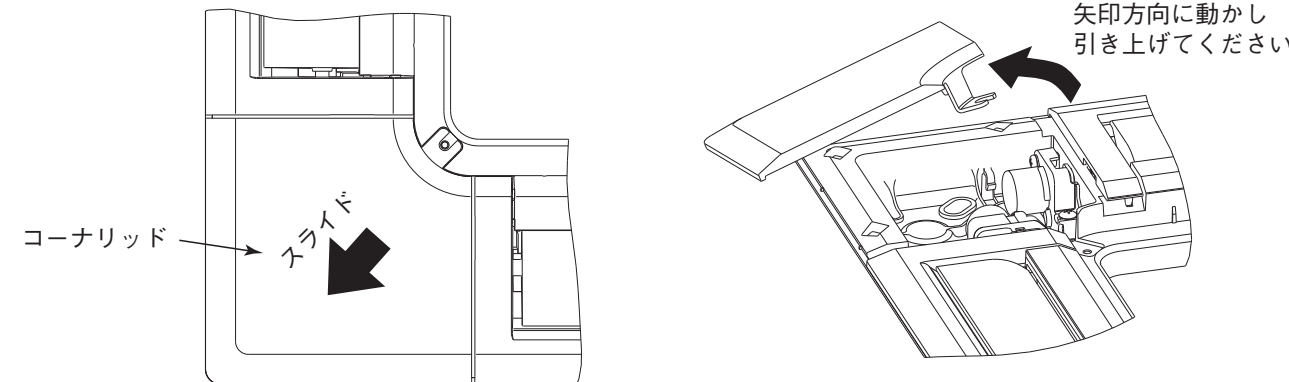
1. 吸込グリルのストッパー（2ヶ所）に指をかけて矢印①の方向に押したまま吸込グリルを下方へ引くと吸込グリルが開きます。
2. 吸込グリルが開いた状態で吸込グリルのヒンジ部をパネルから外します。

（取外し）



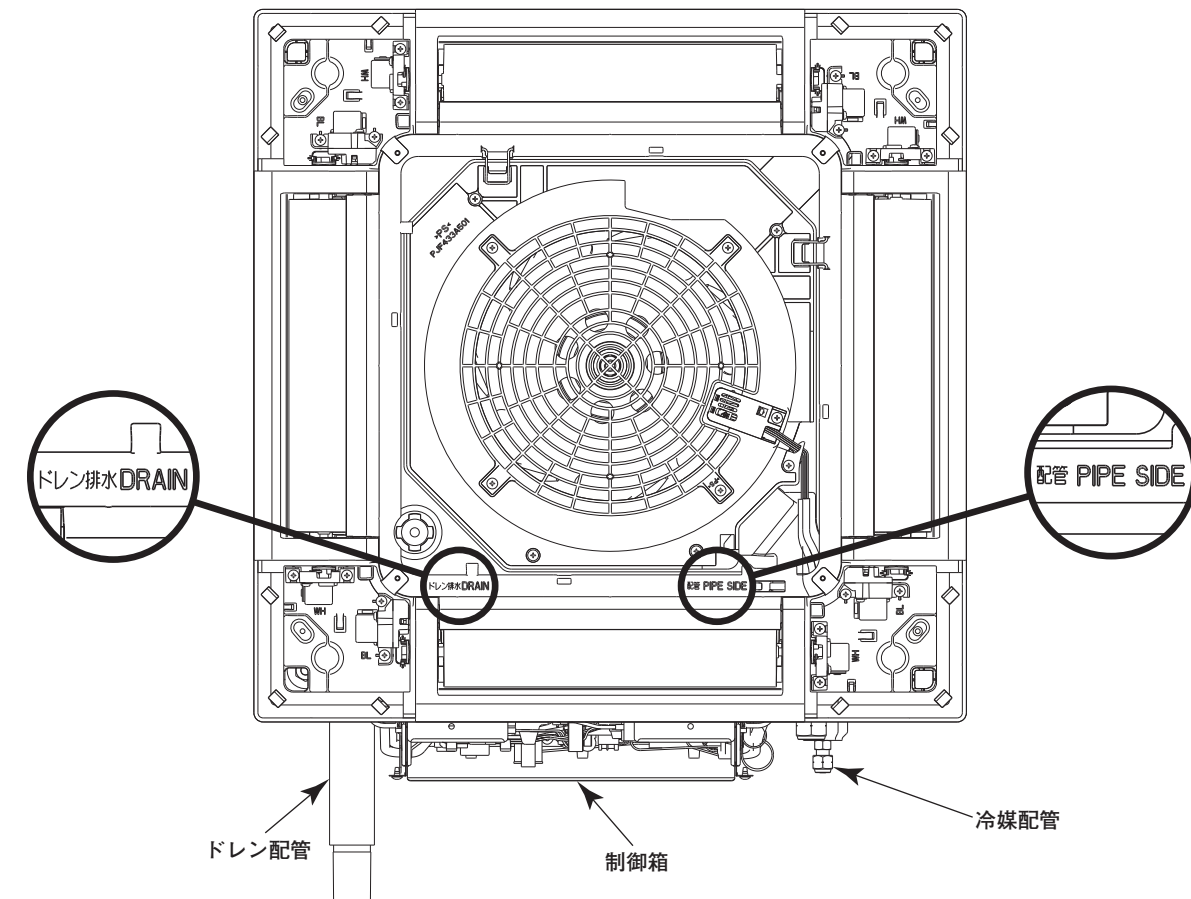
④ コーナリッドの取外し

- ・コーナリッドを矢印の方向へ移動させ取外してください。（4コーナとも）



⑤ パネルの取付け方向

- ・パネルの取付け方向は室内ユニットに対し方向性があります。
- ・パネルは、下図に示す方向で取付けてください。
- ・パネル吸込部の「ドレン排水」と室内ユニットのドレン配管の位置を合わせてください。
- ・パネル吸込部の「配管側」と室内ユニットの冷媒配管の位置を合わせてください。



ご注意

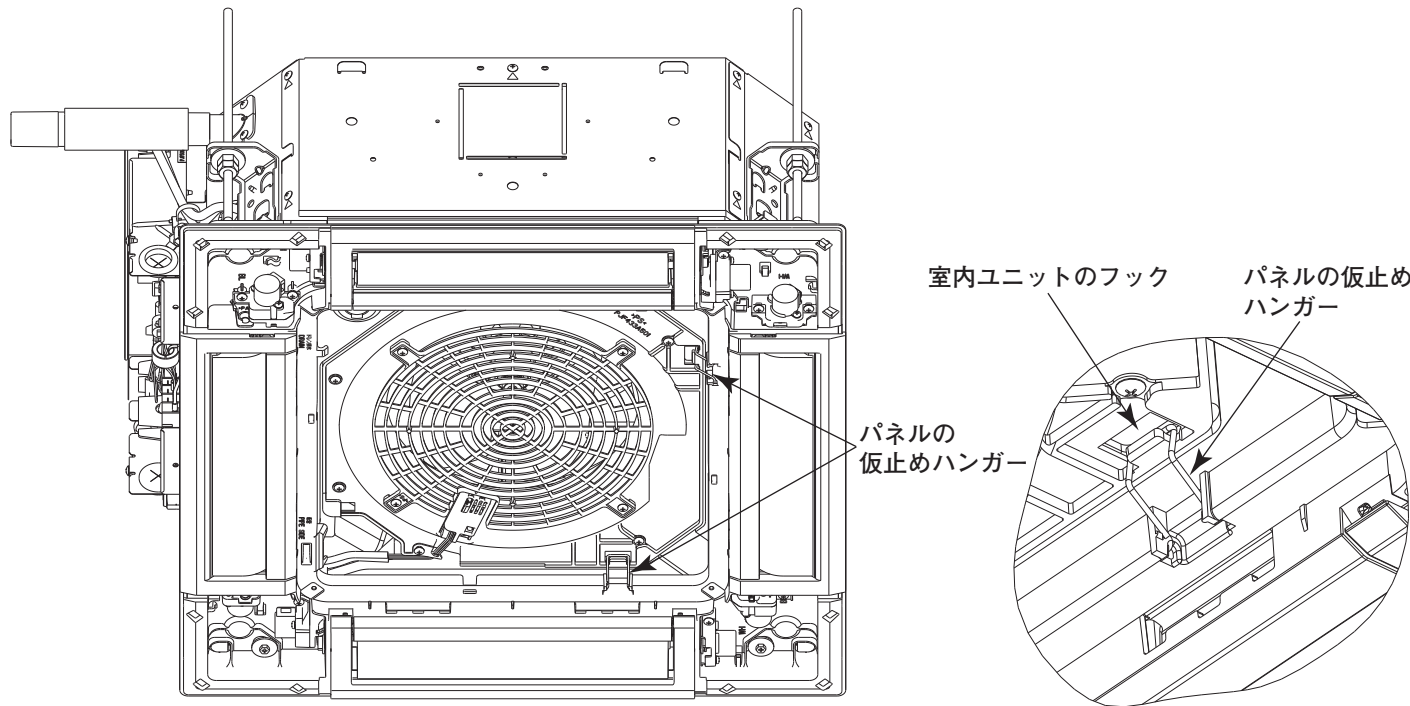
・上図以外の方向で取付けると、風漏れの原因となり、また電気配線の接続ができません。

裏面へつづく ➡

⑥ パネルの取付け

1. パネルの仮止め

- ・パネルの仮止め用ハンガーを起こします。（2ヶ所）
- ・パネルの仮止め用ハンガーを室内ユニットのフックにかけて、パネルを室内ユニットに吊るします。



2. パネルの室内ユニットへの固定

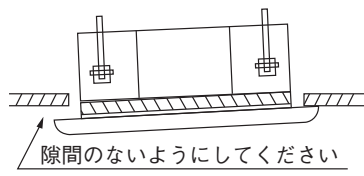
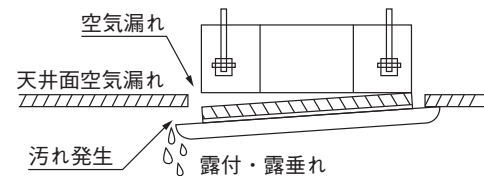
- ・付属のパネル取付け用ボルト4本を用いて、室内ユニットに締め付けてください。

ご注意

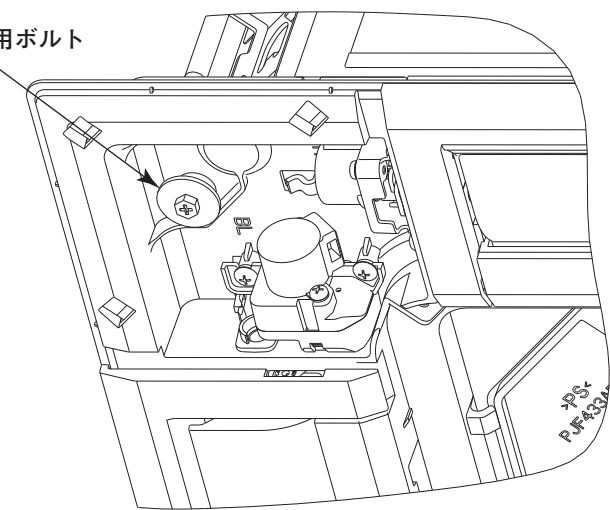
人感センサ配線が噛み込まないように注意してください。

ご注意

- ・吊りボルトの締め込みが不十分な場合、下図のような不具合発生の原因となりますので確実に締め込んでください。
- ・吊りボルトを締め込んでも天井面とパネルとの間に隙間ができる場合は、室内ユニットの高さを再調整してください。



パネル取付け用ボルト

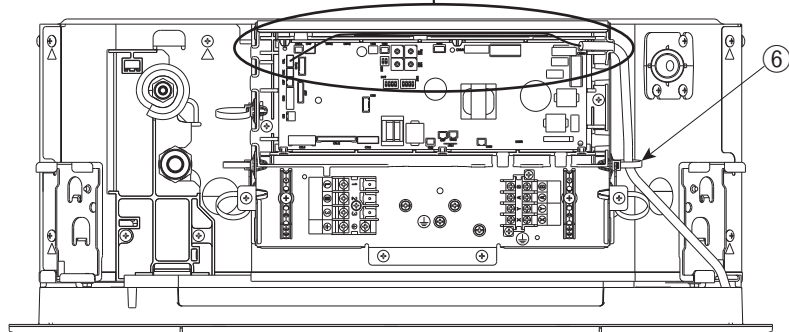
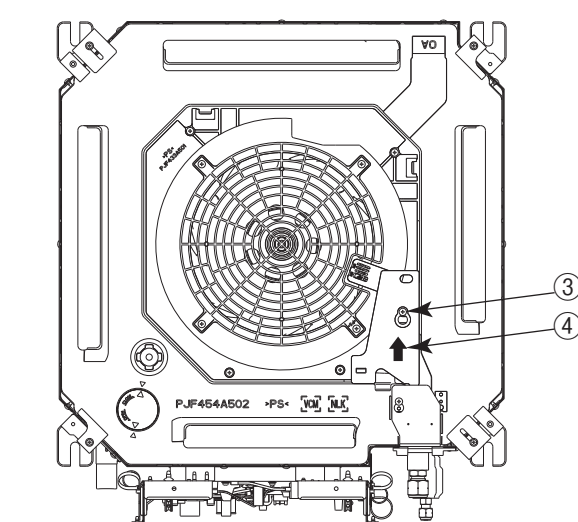
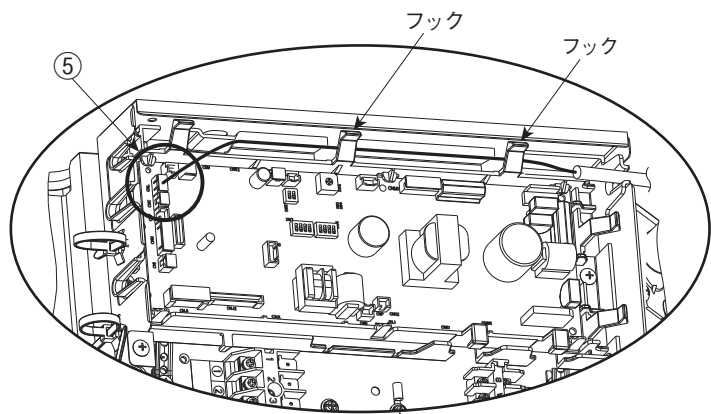
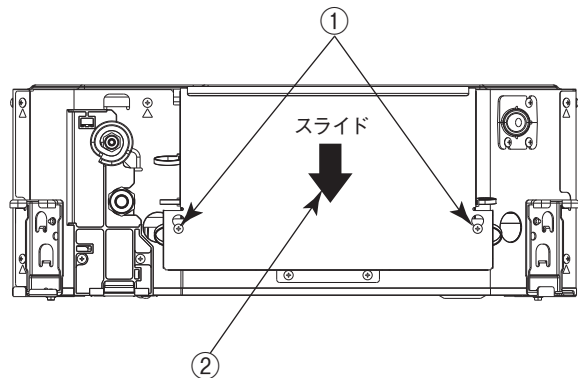


ご注意

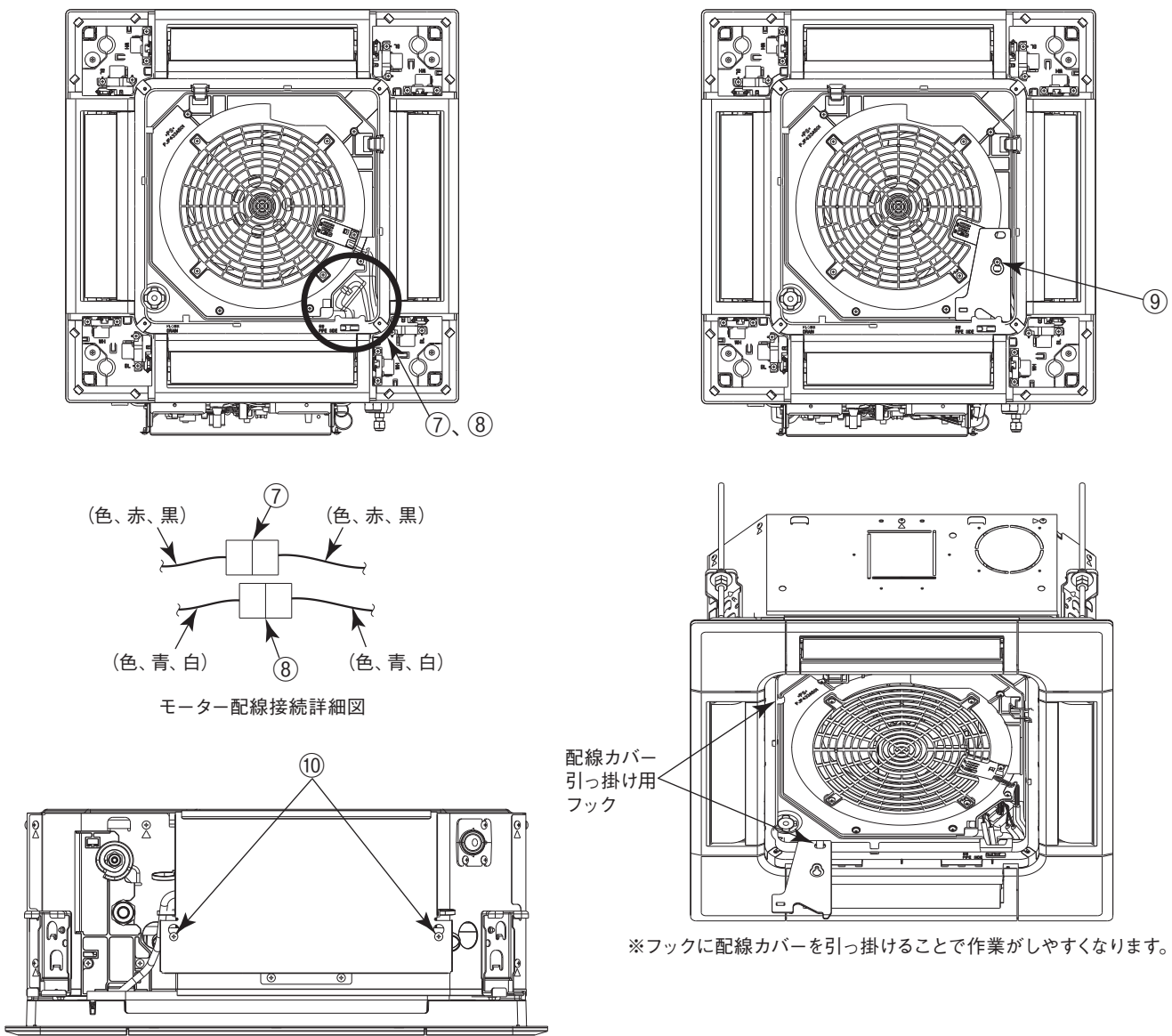
パネル取付けの際、パネルに無理な荷重がかからないよう、室内ユニット据付け高さを調整してください。パネルが変形し、吸込グリル、エアフレックス部品が収まらないおそれがあります。

⑦ 電気配線

- ①ユニット本体の制御箱のねじ（2本）を緩めてください。
- ②制御箱の蓋を図の矢印方向にスライドさせて取外してください。
- ③配線カバーのねじを緩めてください。
- ④図の矢印方向に蓋をスライドさせて、配線カバーを取外してください。
- ⑤人感センサ配線のコネクタを制御箱内の基板のCNL（3P、黒）に接続してください。
- ⑥図のように人感センサ配線をバンドで固定してください。
- ⑦パネル側のルーバモータ配線（配線色：赤、黒）のコネクタを、ユニット側のルーバモータ配線（配線色：赤、黒）のコネクタCNJ3（20P、白）に接続してください。
- ⑧パネル側のエアフレックスモータ配線（配線色：青、白）のコネクタを、ユニット側のエアフレックスモータ配線（配線色：青、白）のコネクタCNJ4（20P、白）に接続してください。
- ⑨配線が噛み込まないように配線カバーを取り付け、ねじで締め付けてください。
- ⑩配線を噛み込まないように制御箱の蓋を取り付け、ねじ(2本)で締め付けてください。

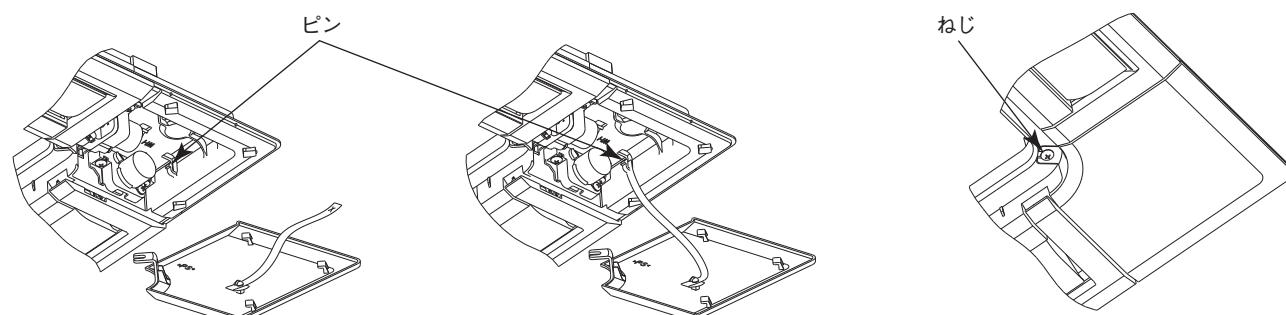


⑦ 電気配線のつづき



⑧ コーナリッドの取付け

1. 付属のコーナリッド落下防止用ストラップをコーナリッドのピンに折り返して引っ掛けてください。
2. コーナリッドに取付けたストラップの反対側をパネルのピンに引っ掛けてください。
3. コーナリッドのつめ3ヶ所をはめ、付属のねじで固定してください。



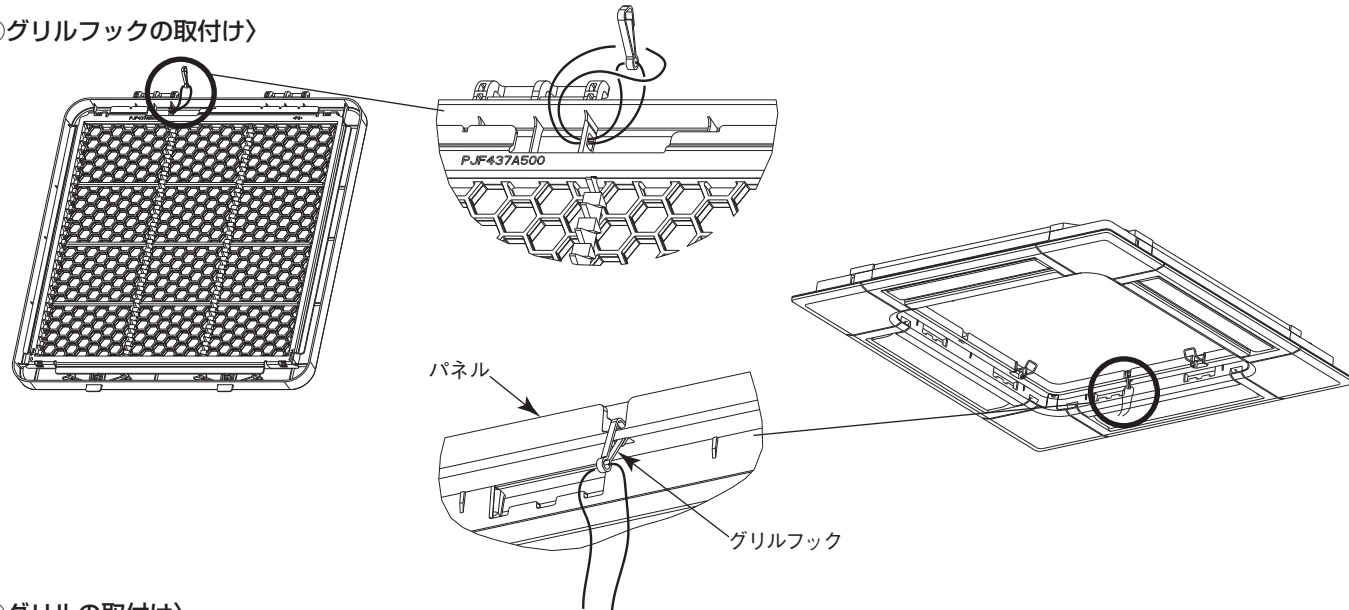
⑨ 吸込グリルの取付け

パネルと吸込グリルには方向性がありません。(吸込グリルのヒンジは4辺どこでも取付け可能です。)

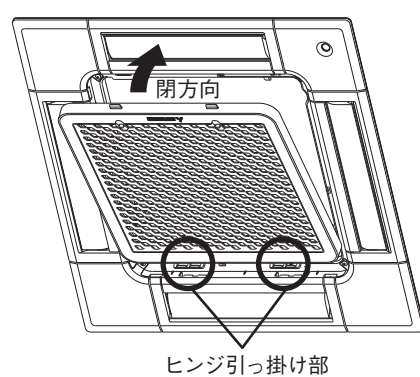
吸込グリルの取付け方は ③ 吸込グリルの取外し の手順を逆に作業してください。

- ①グリルフックをパネルに取り付けてください。
 - ②吸込グリルのヒンジをパネルのヒンジ挿入穴に取付けてください。
- 吸込グリルのヒンジを取付け後、ストッパー（2ヶ所）を押したまま、閉じてください。
- 両方のストッパーが確実にパネルに差し込まれていることを確認してください。

＜①グリルフックの取付け＞



＜②グリルの取付け＞



ご注意

- ・グリルフックは確実にパネル本体側に取付けてください。
- ・吸込グリルの取付けは、必ずヒンジ側から行ってください。
- ・吸込グリルは確実に取付けてください。取付けが不十分だと落下する恐れがあります。
- ・ストッパーが変形・破損した場合は、速やかに修理依頼し、交換してください。吸込グリルが落下する恐れがあります。

⑩ パネルの設定

＜ルーバの動作範囲設定(フリーフロー設定)＞

ワイヤードリモコンを使用することで、吹出口のルーバの動作範囲を変更することができます。本モードで上限位置と下限位置を設定すると、ルーバは設定された上限位置と下限位置の間で動作します。各ルーバ毎に個別の動作範囲の設定が可能です。

＜エアフレックスの設定＞

エアフレックスパネルを取付け、配線接続をするだけではエアフレックスは作動しません。エアフレックスを作動させるために、ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して、エレクトロニクスの設定を有効にしてください。（ワイヤードリモコンRC-DX3A、RC-D4G以前、ワイヤレスリモコンRCN-D3G以前のリモコンでは設定できません。）本モードで有効に設定すると運転開始時にエアフレックスが作動し、運転中は常時エアフレックスが開いています。また、停止時にエアフレックスは閉じます。各吹出口毎に有効/無効の設定が可能です。設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。

＜人感センサの設定＞

エアフレックスパネルを取付け、配線接続をするだけでは人感センサは機能しません。人感センサを機能させるために、ワイヤードリモコンまたはワイヤレスリモコンを使用して、人感センサの設定を有効にしてください。（ワイヤードリモコンRC-DX2、RC-D4G以前、ワイヤレスリモコンRCN-D3G以前のリモコンでは設定できません。）設定方法はリモコンの取扱説明書を参照してください。



安全上のご注意

- 工事の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく据付工事をしてください。いずれも安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- ⚠警告 誤った取り扱いをしたときに、死亡や重傷などの重大な結果に結びつく可能性が大きいもの。
- ⚠注意 誤った取り扱いをしたときに、傷害を負う可能性、または物的損害の可能性のあるもの。状況によっては重大な結果に結び付く可能性があるもの。
- 本文中に使われる「絵表示」の意味は次の通りです。

	絶対にしないでください。		必ず指示どおりに行ってください。
--	--------------	--	------------------

●お使いになる方は、この説明書をいつでも見られるところに大切に保管してください。移設・修理の場合、工事される方にお渡しください。また、お使いになる方が代わる場合、新しくお使いになる方にお渡しください。

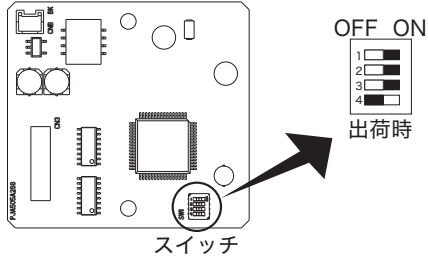
警告

- 据付は、お買上げの販売店または専門業者に依頼する。
ご自分で据付工事をされ不備があると、感電、火災、故障の原因になります。
- 据付工事は、この据付説明書に従って確実に行う。
据付に不備があると感電、火災、故障の原因になります。
- 据付工事部品は必ず付属品および指定部品を使用する。
当社指定の部品を使用しないと、落下、火災、感電の原因になります。
- 据付は、重量に十分耐える所に確実に行う。
強度が不足している場合は、本機の落下などにより、ケガの原因になります。
- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」および据付説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災などの原因になります。
- 据付工事は、必ず電源をしゃ断して行う。
感電、故障や動作不良の原因になります。
- 改造は絶対にしない。
感電、火災、故障の原因になります。
- 修理・点検に際して「電源ブレーカ」を必ず OFF にする。
修理・点検にあたって、電源ブレーカが ON のままだと、感電およびケガの原因になります。
- 特殊環境、可燃性ガスの発生・流入・滞留・漏れのおそれがあるところへ設置しない。
油・蒸気・有機溶剤・腐食ガス（アンモニア・硫黄化合物・酸など）の多いところや、酸性やアルカリ性の溶液・特殊なスプレーなどを頻繁に使うところで使用すると、著しい性能の低下・腐食による感電、火災、故障の原因になります。
- 大量の水蒸気が発生するところ・結露するところには設置しない。
感電、火災、故障の原因になります。
- 洗濯室など水のかかる所では使用しない。
感電、火災、故障の原因になります。
- ぬれた手で操作しない。
感電の原因になることがあります。

② 取り付け前の準備の続き

現地設定の変更方法

1. 付属品の基板上のスイッチを変更してください。



2. SW1 を OFF にする場合はワイヤレスリモコン側も設定変更 してください。
設定変更は、本説明書 **④ワイヤレスリモコン** の **混信防止設定** をご覧ください。
※受信可能範囲は、本説明書 **⑤受信部** をご覧ください。

複数リモコン使用時の親子設定

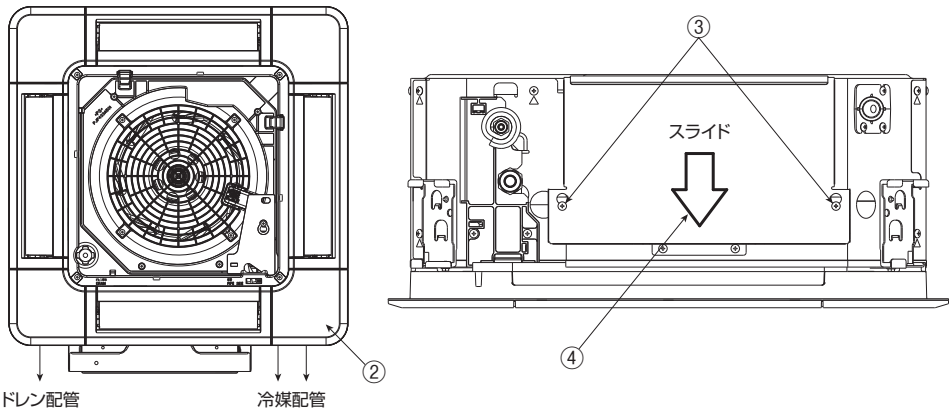
1つのグループに対して最大2個までワイヤレスリモコン（受信部）・ワイヤードリモコンを接続できます。その際は、いずれか一方を、子機設定とする必要があります。ワイヤードリモコンの設定変更は、ワイヤードリモコン付属の説明書をご覧ください。

③ 受信部の取り付け

本ワイヤレスキットの受信部は、対応パネルのコーナリッドと交換することにより取り付け可能です。

取り付け前の準備

- ① パネル据付説明書に従って、吸込グリルを取り外してください。
- ② 冷媒配管側のコーナリッドを取り外してください。
- ③ ユニット本体の制御箱の蓋のねじ（2本）を緩めてください。
- ④ 制御箱の蓋を図の矢印方向にスライドさせて、取り外してください。



警告

- 本機を水洗いしない。
感電、火災、故障の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- 病院・通信事業所などに据付けする場合、ノイズに対する備えを行うこと。
インバーター機器・自家発電機・高周波医療機器・無線通信機器などの影響により、誤動作や故障の原因になります。
リモコン側から医療機器・通信機器への影響により、医療行為の妨げ・映像放送の乱れや雑音の弊害が生じる原因になります。
- 基板のケースを取り外したまま放置しない。
水分・ホコリ・虫などが浸入すると、感電・火災・故障の原因になります。








注意

- ワイヤレスキットを下記場所に設置しない。
ワイヤレスキット故障や変形の原因になることがあります。
(1) 直射日光の当たる場所 (8) 蛍光灯（特にインバータータイプ）の近く
(2) 発熱器具の近く あるいは、直射日光が受光アダプタに当たる場所
(3) 湿気の多い所・水のかかる所 (9) 他の赤外線通信機器の光線が受光アダプタに当たる場所
(4) 取り付け面が発熱・結露する場所 (10) ワイヤレスリモコンの操作場所から見て、障害物に隠れてしまう場所
(5) 油の飛沫や蒸気が直接接触する場所
(6) 取り付け面に凹凸がある所
(7) 室内ユニットの吹出し空気が当たる場所






① 付属品

次の付属品を確かめてください。

ワイヤレス受信部

① 受信部		1	⑤ ブラケット取付用ネジ		1
② 基板		1	⑥ 配線（通信用）		1
③ 基板取付用サポート		2	⑦ 配線（受信用）		1
④ ブラケット（板金）		1	⑧ 据付説明書		1

ワイヤレスリモコン（別売品）RCN-D5

① ワイヤレスリモコン		1
② リモコン用ホルダー		1
③ 同上用木ネジ		2
④ リモコン用電池		2
⑤ 取扱説明書		1

② 取り付け前の準備

基板の設定

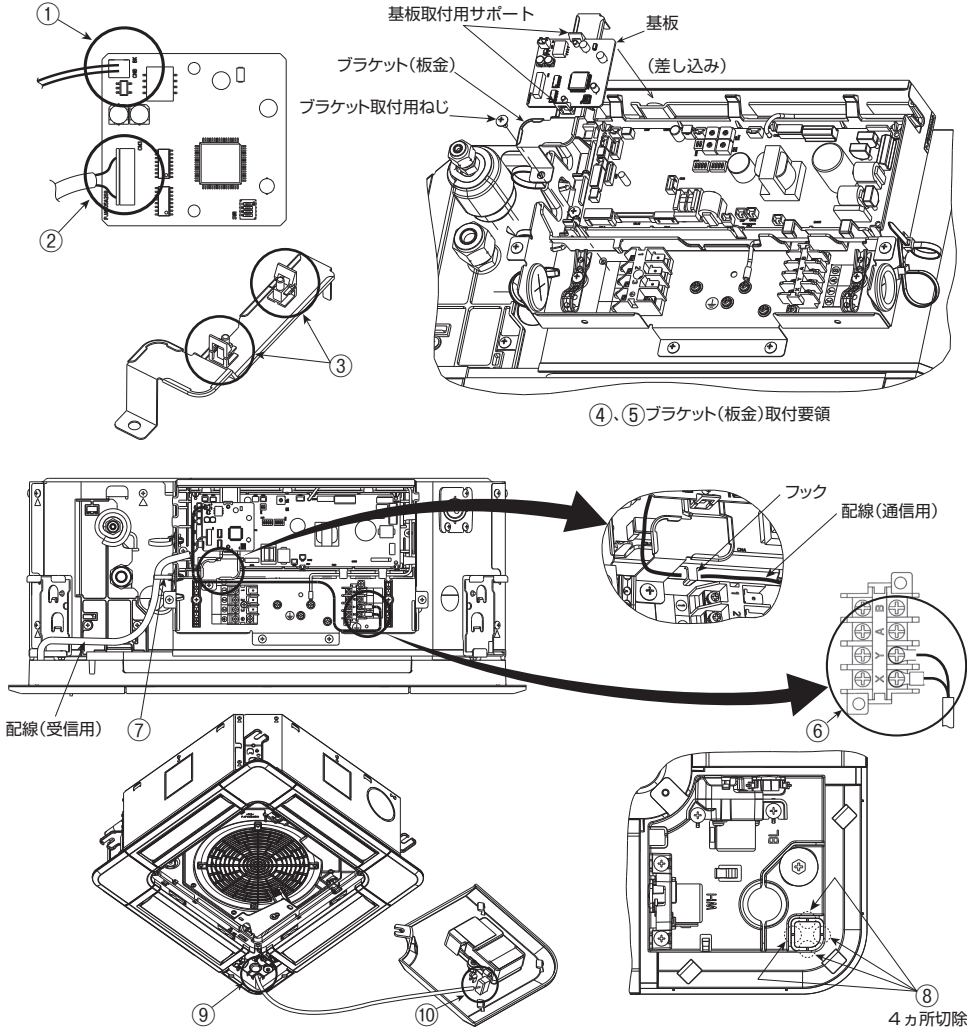
付属品の基板上のスイッチの設定は右記の通りです。
なお、出荷時の設定は ☐ で囲まれた設定になっています。

SW1	複数台設置時の混信誤動作防止	<input type="checkbox"/> ON：通常 <input type="checkbox"/> OFF：切換
SW2	受信部の親子切換	<input type="checkbox"/> ON：親 <input type="checkbox"/> OFF：子
SW3	ブザー音	<input type="checkbox"/> ON：有効 <input type="checkbox"/> OFF：無効
SW4	停電補償	<input type="checkbox"/> ON：有効 <input type="checkbox"/> OFF：無効

③ 受信部の取り付けの続き

受信部の取り付け

- ① 配線（通信用）のコネクタを基板の CNB に接続してください。
- ② 配線（受信用）のコネクタを基板の CN3 に接続してください。
- ③ ブラケット（板金）に基板取付用サポートを取り付けてください。
- ④ 基板取付用サポートに基板を取り付けてください。
- ⑤ 図のようにブラケット（板金）を制御箱片側に差し込み、もう片側をねじで締め付けてください。
- ⑥ 配線（通信用）の丸端子を制御箱内の端子台（X、Y）に接続してください。配線に極性はありません。
- ⑦ 図のように配線をバンドで固定してください。
- ⑧ 図に示すパネルのハーフブランク（4カ所）を切除してください。
- ⑨ 配線（受信用）をパネル開口部に通してください。
- ⑩ 配線（受信用）と受信部のコネクタを接続してください。
- ⑪ 受信部をパネル据付説明書に従って、パネルに取り付けてください。
- ⑫ 配線を噛み込まないように制御箱の蓋を取り付け、ねじ（2本）で締め付けてください。



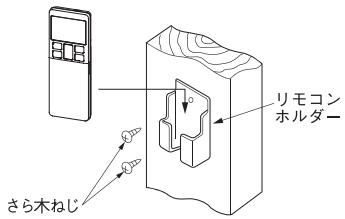
④ ワイヤレスリモコン

リモコンホルダーの据付

リモコンホルダーを付属のねじで固定してください。

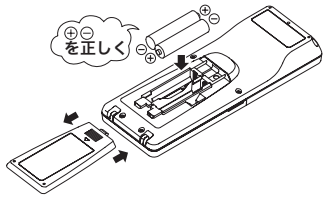
※ホルダー取り付け時の注意

- ・垂直になるよう調節してください。
- ・ねじ頭が出ないようにしてください。
- ・土壁等へは取り付けないでください。



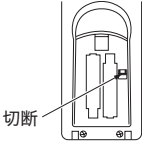
電池の入れ方

1. 裏蓋を外します。
2. 乾電池を入れます。(単四 2 本)
3. 裏蓋を取り付けます。



混信防止設定

1. リモコンの裏蓋をはずし、乾電池を取り外す。
2. 乾電池横の切換線をニッパー等で切断する。
3. 乾電池を入れて、裏蓋を取り付ける。



リモコンの設定変更

自動運転の設定変更のしかた

ビル空調・ガスヒートポンプシリーズ (除く冷暖フリーマルチ) は自動運転ができません。

これらの機種に使用する場合は、リモコンを自動運転無効の設定にしてください。

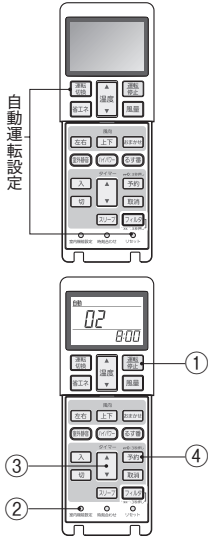
運転切換ボタンを押しながらリセットスイッチを押すか、運転切換ボタンを押しながら電池を投入すると、自動運転が無効となります。

※注意：一度電池を取り外すと初期設定 (工場出荷時設定) へ戻ります。電池を取り外した時は、再度上記操作を行ってください。

室内機能設定

1. 室内機能設定のしかた

- ① 運転 / 停止を押し、停止状態にする。
- ② 室内機能設定スイッチを押しながら、2 項に示すボタンを押す。
- ③ 選択ボタン▲、▼で設定を変更する。
- ④ 予約ボタンを押す。
リモコン信号受信部より、ピピッと 2 回ブザーが鳴り、LED は 2 秒毎に 4 回点滅します。



④ ワイヤレスリモコンの続き

2. 設定内容

機能設定が可能な項目は下記となります。

ボタン	番号表示部	機能設定
風量	00	風速設定：標準
	01	風速設定：設定 1 ※
	02	風速設定：設定 2 ※
運転切換	00	暖房室温補正：無効
	01	暖房室温補正：+ 1℃
	02	暖房室温補正：+ 2℃
	03	暖房室温補正：+ 3℃
フィルタ	00	フィルターサイン表示：なし
	01	フィルターサイン表示：180 時間
	02	フィルターサイン表示：600 時間
	03	フィルターサイン表示：1000 時間
	04	フィルターサイン表示：1000 時間後運転停止
上下	00	ドラフト防止設定 (エアフレックス設定)：無効
	01	ドラフト防止設定 (エアフレックス設定)：有効
室外静音	00	赤外線センサー設定 (人感センサー設定)：無効
	01	赤外線センサー設定 (人感センサー設定)：有効
ハイパワー	00	赤外線センサー制御 (人感センサー制御)：無効
	01	赤外線センサー制御 (人感センサー制御)：パワーコントロールのみ
	02	赤外線センサー制御 (人感センサー制御)：オートオフのみ
	03	赤外線センサー制御 (人感センサー制御)：パワーコントロール+オートオフ
入	00	冷房ファン残留運転：無効
	01	冷房ファン残留運転：0.5 時間
	02	冷房ファン残留運転：2 時間
	03	冷房ファン残留運転：6 時間
切	00	暖房ファン残留運転：無効
	01	暖房ファン残留運転：0.5 時間
	02	暖房ファン残留運転：2 時間
	03	暖房ファン残留運転：6 時間
るす番	00	リモコン信号受信部 LED：輝度明
	01	リモコン信号受信部 LED：輝度暗
	02	リモコン信号受信部 LED：消灯
省エネ	0.1	グリル自動昇降降下長：0.1 m
	0.2	グリル自動昇降降下長：0.2 m
	.	.
	.	.
	2.0	グリル自動昇降降下長：2.0 m
	.	.
	.	.
	3.9	グリル自動昇降降下長：3.9 m
運転 / 停止	4.0	グリル自動昇降降下長：4.0 m
	50	グリル自動昇降周波数：50Hz
	60	グリル自動昇降周波数：60Hz

※ 詳細は技術資料を参照ください。

5

⑤ 受信部

1 リモコンによる複数台室内ユニット制御

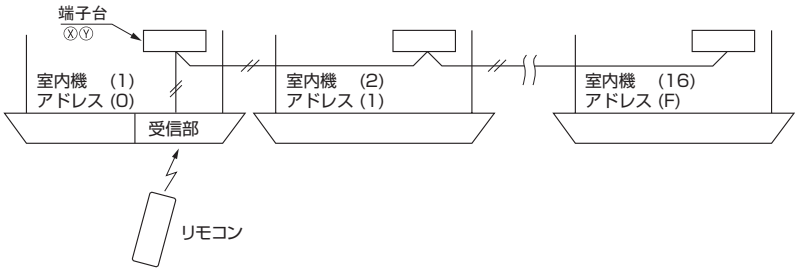
1. 1 つのリモコンで複数台のユニット (最大 16 台) をグループ制御できます。
同一モード、同一室温設定で運転します。
2. グループ制御用に各室内ユニット間に
2 心のリモコン線にて渡り配線してください。

渡り配線の太さと長さの制限 (最大 600m)

標準	0.3 mm ² × 100m 以内
	0.5 mm ² × 200m 以内
	0.75mm ² × 300m 以内
	1.25mm ² × 400m 以内
	2.0 mm ² × 600m 以内

店舗シリーズの場合

室内基板上的ロータリスイッチ SW 2 により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「0」～「F」に設定してください。



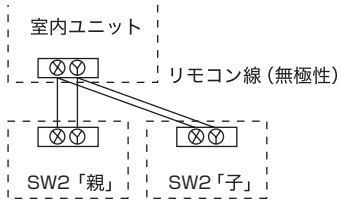
ビル空調・ガスヒートポンプシリーズの場合

室内・室外 No. を手動アドレス設定にてセットしてください。

室内ユニット基板上的ロータリ SW1、SW2 により、室内 No. を重複ないように設定してください。

複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット 1 台 (又は 1 グループ) に対して最大 2 個までのリモコンを接続できます。



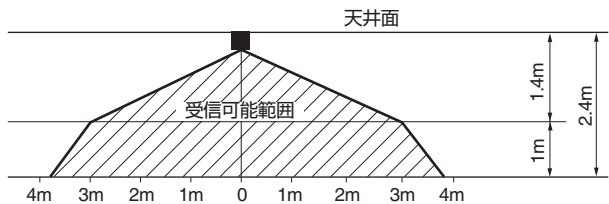
スイッチ	設定	機能内容
SW2	ON	親リモコン
	OFF	子リモコン

ワイヤレスリモコンの操作距離

1. 標準的な受信距離

【条件】受信部照明度 300ルクス

(一般事務所で受信部周辺 1m 以内の天井面に照明がない場合)

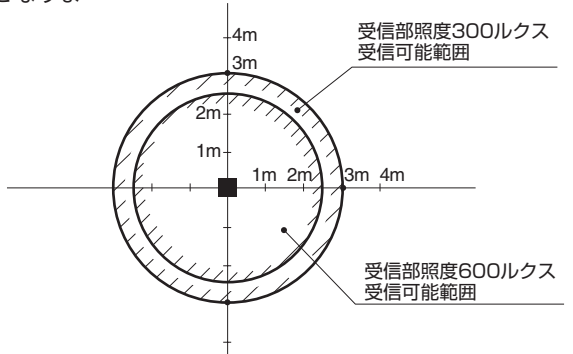


6

⑤ 受信部の続き

2. 平面から見たときの受信部照度と受信距離の関係

【条件】天井高さ 2.4m、床面より 1m の高さより、リモコン操作した場合の受信部照度と受信距離との関係を右図に示します。照度が 2 倍になると受信距離は 2 / 3 となります。



3. 複数台近接設置の注意

【条件】受信部照明度 300ルクス

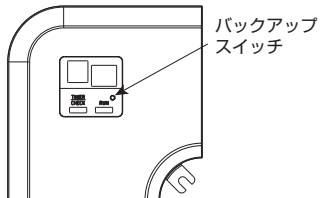
(一般事務所で受信部周辺 1m 以内の天井面に照明がない場合)

【複数台近接設置】リモコン使用時の同一動作を防止できる最小距離は 5m です。

バックアップスイッチ操作

表面受信部にバックアップスイッチを装備しています。ワイヤレスリモコン操作ができない場合 (電池切れ、紛失、故障) に応急的に使用してください。操作は手で直接操作してください。

1. 停止中に押すことにより自動モード (冷専は冷房モード) で運転します。
風量「急」 温度設定「23℃」 ルーバ「水平」
2. 運転中にバックアップスイッチを押すことにより「停止」します。



冷房試運転操作

● 受信部バックアップスイッチを押しながら、リモコンにて冷房運転を送信してください。

● 試運転時に受信部バックアップスイッチを押すと試運転が解除されます。

● 試運転時、正常に動作しない場合は、室内・室外ユニットに貼り付けの結線銘板の点検表示を参照し、点検してください。

2桁表示の見方

受信部は 2 桁表示 (7 セグ) を装備しています。

1. 表示は電源投入後 1 時間表示します。
2. リモコンから「停止」送信又は、バックアップスイッチ「停止」操作後 3.5 秒間表示します。
3. 上記の表示は、運転開始とともに消灯します。
4. 異常履歴がない場合は接続台数分のアドレスを表示します。
5. 異常履歴が残っている場合は、履歴の内容を表示します。
6. 異常履歴は、バックアップスイッチを押しながらリモコンから「停止」送信によりクリアされます。

7

8

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

安全上のご注意

- 作業前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ正しく作業してください。
安全のため必ずお守りください。
 - 誤った作業、行為をしたときに生じる危害や損害を「**△警告**」と「**△注意**」に区分し、お守りいただく内容を「図記号」を使用し説明していますので、必ずお守りください。
 - 「**△警告**」「**△注意**」の意味
- | | |
|------------|--|
| △警告 | 守らないと、死亡または重大な障害にいたる危険性がある事項について説明しています。 |
| △注意 | 守らないと、傷害や物的損害ある事項について説明しています。 |
- ここで使われる“図記号”の意味は右のとおりです。

	絶対に行わない		必ず指示に従い行う
--	----------------	--	------------------
 - 下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電又は過熱、ショートによる火災のおそれがあります。

△警告

- 電気工事は電気工事士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及び電気配線工事説明書に従って施工し、必ず専用回路を使用する。
電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災の原因になります。
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。
接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災などの原因になります。
- 室内外ユニット間の配線は、端子カバーが浮き上がらないように整形し、カバーを確実に取付ける。
カバーの取付けが不完全な場合は、端子接続部の発熱、火災や感電の原因になります。
- 別売品は、必ず当社指定の部品を使用する。また、取付けは専門業者に依頼する。
ご自分で取付けをされ、不備があると、水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 改修は絶対にしない。また、修理はお買い上げの販売店に相談する。
修理に不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内外ユニットを移動再設置の場合は、販売店または専門業者に相談する。
据付けに不備があると水漏れや感電、火災などの原因になります。
- 室内ユニットの修理・点検作業に際して「電源ブレーカ」を必ずOFFする。
点検・修理にあたって、電源ブレーカがONのままだと、感電およびファン回転によるケガの原因になります。
- 元電源を切った後に電気工事をする。
感電、故障や動作不良の原因になります。

△注意

- アース（接地）を確実に行う。
アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース（接地）が不完全な場合は、故障や漏電のとき感電や火災の原因になることがあります。
- 電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取付ける。
漏電遮断器が取付けられていないと感電や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量の全極遮断するブレーカ（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器＋B種ヒューズ）・配線遮断器）を使用する。
不適切な容量のブレーカを使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 正しい容量のヒューズ以外は使用しない。
針金や銅線を使用すると故障や火災の原因になることがあります。
- 電源配線は、電流容量に合った規格品の配線を使用する。
漏電や発熱・火災などの原因になることがあります。
- 室内外接続用端子台および電源用端子台に単線とより線を併用しない。
また、異なったサイズの単線またはより線を併用しない。
端子台のねじゆるみや接触不良が生じ、発煙・発火の原因になることがあります。
- 運転停止後、すぐに電源を切らない。
必ず5分以上待ってください。水漏れや故障の原因になることがあります。
- 電源ブレーカによるエアコンの運転や停止をしない。
火災や水漏れの原因になることがあります。ファンが突然回り、ケガの原因になることがあります。

制御の切換

- 室内ユニットの制御内容を下記方法にて切換可能です。（は工場出荷時の設定）

スイッチNo.	制御内容
SW1	室内アドレス(10位)
SW2	室内アドレス(10位)
SW3	室外アドレス(10位)
SW4	室外アドレス(10位)
SW5-1	ON 旧SL通信仕様固定 OFF 新SL/旧SL通信仕様自動判別
SW5-2	室内アドレス(100位)
SW6-1～4	機種容量
SW7-1	ON 運転チャックドレンポンプ運転 OFF 通常運転

注1：通信方式であるスーパーリンクの仕様が選択できます。
旧 SL：ビル空調 2LX シリーズ、ガスヒートポンプ M7 シリーズ以前
新 SL：ビル空調 3LX シリーズ、ガスヒートポンプ M8 シリーズ以降
SW5-1 が OFF（工場出荷設定）の場合は、通信仕様（新 SL/旧 SL）を自動判別します。
旧 SL 通信仕様固定で使用する場合は、SW5-1 を ON にしてください。
各通信仕様の特徴、制限は室外ユニットに付属の据付説明書をご覧ください。

①電源・室内外配線の接続（つづき）

電源仕様

- 室内ユニットを個別に電源に接続する場合

①室内機電源使用（②～③以外の機種）

機種容量	漏電遮断器定格	開閉器容量	ヒューズ	電源線太さ	配線こう長	信号線	リモコン線	アース線
22-36形	15A 30mA 0.1sec	30A	15A	2.0mm ² ×2	298m	0.75～1.25mm ² ×2	0.3mm ² ×2心	2.0mm ²
45-56形					275m			
71-90形					179m			
112-160形					123m			

②高静圧ダクト、給気処理ユニット、加湿器付外気処理ユニット

45-90形	15A 30mA 0.1sec	30A	15A	2.0mm ² ×2	149m	0.75～1.25mm ² ×2	0.3mm ² ×2心	2.0mm ²
112-160形					85m			
224,280形					28m			

③床置形システムパッケージ

112形	15A 30mA 0.1sec	30A	15A	2.0mm ² ×2	51m	0.75～1.25mm ² ×2	0.3mm ² ×2心	2.0mm ²
140,160形					34m			
224,280形			20A	3.5mm ² ×2	32m			

- 注1. 配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。上記の配線こう長を越える場合は、内線規程に従い、配線太さを見直してください。
- 注2. リモコン線の延長距離が100mを越える場合は、**③リモコンの取付け**に従い、配線太さを見直してください。

- 複数の室内ユニットを一つの電源に接続する場合

室内機合計電流	配線太さ (mm ²)	配線こう長 (m)	配線用遮断器定格電流
7A以下	2	21	20A
11A以下	3.5	21	20A
12A以下	5.5	33	20A
16A以下	5.5	24	30A
19A以下	5.5	20	40A
22A以下	8	27	40A
28A以下	8	21	50A

- 注1. 表中のこう長は、室内ユニットを直列に接続した場合の値を示します。また、室内ユニット合計電流別に電圧降下を2%以内とした場合の配線太さこう長を示しています。電流が左表の値を超える場合、内線規程に従い配線太さを見直してください。
- 注2. サービス時（電源OFF時）のため、別の冷媒配管システムの室内機を同一電源とすることは避けてください。

漏電遮断器の定格感度電流は、下記計算式と判定方法を参照ください。

- 注3. 下記に示す計算式は目安であり、現地設備、工事内容により異なる場合があります。漏電遮断器が頻繁に作動する場合は、現地設備、工事内容に適した漏電遮断器を選定してください。

<計算式> 必要感度電流 = (各室内機の機種係数 × 台数) の合計値 + (配線係数×配線長[km])

<機種係数>

機種	係数
FDT,FDTc	3.5
FDTW,FDTs,FDR,FDU,FDE,FDK,FDU-F	2.5
その他	1

<配線係数>

電源配線径	係数
2.0mm ²	50
3.5mm ²	60
5.5mm ²	60
8.0mm ²	60

<判定方法>

- (i) 必要感度電流≤30 定格感度電流30mA (0.1s以下) 品をご使用ください。
- (ii) 30<必要感度電流≤100 原則、必要感度電流が30mA以下となるよう漏電遮断器の系統分割をしてください。系統分割が難しい場合は、接地抵抗値が内線規程に基づいた値以下となる様確実に接地工事を行った場合に限り、定格感度電流100mA (0.1s以下) 品の使用が可能です。
- (iii) 100<必要感度電流 漏電遮断器の系統分割（追加）が必要です。

冷暖フリーマルチの場合

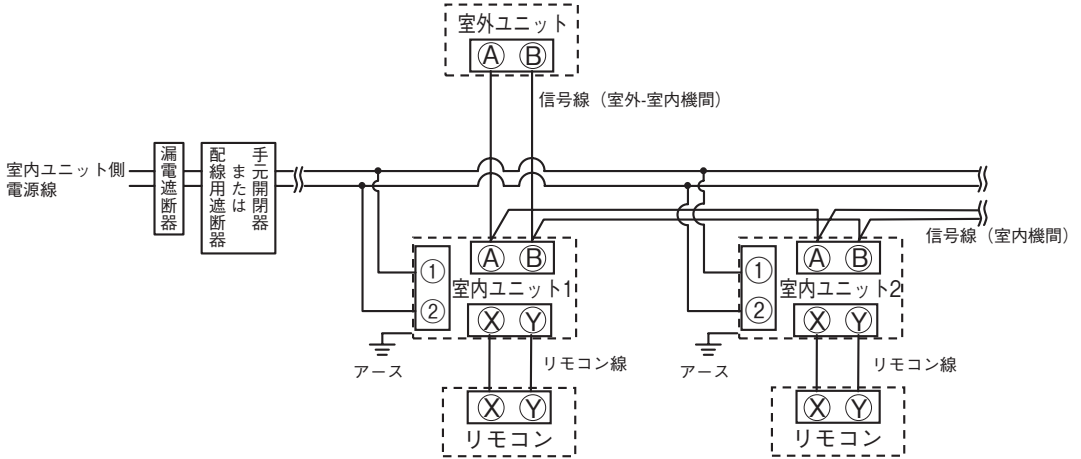
- 分流コントローラの配線
- 本ユニットを冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ（別売品）に付属の据付説明書をご覧ください。

②アドレス設定

アドレス設定は、（1）手動アドレス設定、（2）自動アドレス設定の2方法ができます。
自動アドレス設定の場合、アドレス設定後、ワイヤードリモコンからアドレスの変更が可能です。
設定方法は、室外ユニットに付属の説明書をご覧ください。

①電源・室内外配線の接続

- 電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。
- ①配線は銅線以外のものを使用しないでください。
- ②電源は、室外ユニット、室内ユニット各々別電源としてください。
- ③電気ヒータ（別売品）はなしにて記載してあります。
注：電気ヒータを組込む場合は、電源仕様・配線仕様および配線本数が異なりますので、ご注意ください。
- ④同一系統内の室内ユニットの電源は、必ず全て同時 ON、同時 OFF になるようにしてください。
- アース線は室内外接続線及び室内ユニット間配線の接続前に接続してください。また、アース線は室内外接続線より長くし、アース線に力が加からないようにしてください。
- 電源は工事が完了するまで入れないでください。
- D種接地工事を必ず行ってください。
- 端子台への接続は、丸型圧着端子を接続してください。
- 専用の分岐回路を用い、他の機器と併用しないでください。併用した場合、電源ブレーカ落ちによる二次災害は生じる恐れがあります。
- 機種毎に設定された過電流及び漏洩遮断器を設置してください。
- 室内外の信号線は途中接続しないでください。途中接続した場合に水が浸入すると、対地間絶縁不良や途中接続部の接触不良をまねき、通信異常の原因となります。（万一、途中接続する場合には、絶対に水が浸入しないような処置を行ってください。）
- 天井裏内の配線（電源・リモコン・室内外接続線など）はネズミ等により、かじられ切断することもありますので、なるべく鉄管等の保護管内に通してください。
- 室内ユニットに接続する電源線は3.5mm²まで使用可能です。5.5mm²以上の配線を使用する場合は、専用のブルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐してください。
- 信号線と電源線の接続を間違えますと全ての基板が焼損する場合がありますので、ご注意ください。
- ① A-B 信号線に誤って、200V 電源を接続しても初めの1回は保護します。
- ②電源投入 15 分経過後リモコンからユニット No.(アドレス) が確認できない場合は、全ての信号線を確認して誤接続を修復してください。
- ③焼損基板のジャンパー線 J10SL1 を切り、コネクタ CnK(黄) CnK1(白) を CnK2(黒) に差し替える。
- ④ A-B 端子台から基板までの配線に異常があれば交換してください。
- 室内外ユニットの外部では、リモコン線と電源線が直接接触しないように施工してください。
- リモコン用端子台には、200V 電源を絶対に接続しないでください。故障の原因となります。
- ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続
- ①ユニット間配線・アース線およびリモコン線の接続は、制御箱内の電源側端子台、信号側端子台に番号を合わせて接続してください。また、アース線は、電源側端子台アース線に接続してください。
- ②電源には必ず漏洩遮断器を取付けて下さい。漏洩遮断器は、インバータ回路用遮断器（三菱電機製 NV-C シリーズまたは、その同等品）を選定してください。
- ③漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏洩遮断器と直列に手元遮断器（開閉器＋B 種ヒューズ）または、配線用遮断器が必要となります。
- ④手元開閉器はユニットの近傍に設置ください。
- 配線の接続はねじの緩みのないように確実に行ってください。また、制御箱内のコネクタの抜けや端子外れがないことを確認してください。
- 補助電気ヒータ組込の場合は、電気ヒータ組込時の説明書・または技術資料で確認してください。



③リモコンの取付け（別売部品）

- 次の位置へ取付けないでください。

- 直射日光の当たる所
- 発熱器具に近い所
- 湿気の多い所、水が飛散する所
- 取付面が発熱・結露する所
- 油の飛沫や蒸気が直接触れる所
- 取付面の凹凸がある所

リモコン取付・配線

- ①リモコンの取付けは、リモコン付属の説明書に従ってください。
- ②リモコン線は、0.3mm²×2心の電線またはケーブルを使用してください。配線の被覆は1mm以上のものを使用してください。（現地手配）
- ③リモコン線の総延長は600mです。

延長距離が100mを超える場合は、下記サイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズを変更してください。

- 100～200m以内・・・0.5mm²×2心
- 300m以内・・・0.75mm²×2心
- 400m以内・・・1.25mm²×2心
- 600m以内・・・2.0mm²×2心

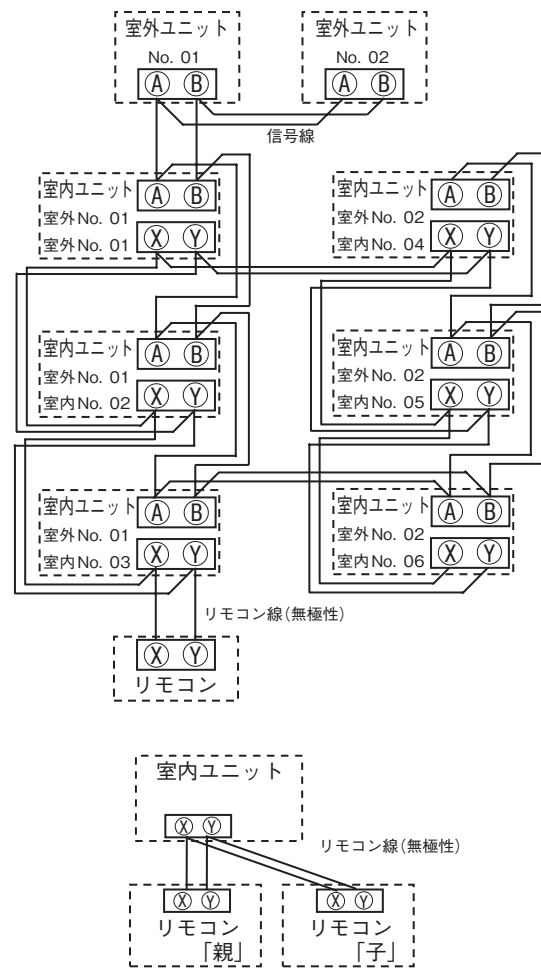
- ④誤動作する場合がありますので、多芯ケーブルの使用は避けてください。
- ⑤リモコン線はアース（建物の鉄骨部分または金属など）からできるだけ離してください。
- ⑥リモコン線は確実にリモコンと室内ユニットの端子台に接続してください。（極性はありません）

1リモコンによる複数台室内ユニット制御

- ①1つのリモコンで複数台のユニット（最大16台）をグループ制御できます。
同一モード、同一室温設定で運転します。
- ②グループ制御用に各室内ユニット間を2心のリモコン線にて渡り配線してください。
- ③室内・室外No.を手動アドレス設定にてセットしてください。
○室内ユニット基板上的のロータリースイッチSW1、SW2及びディップスイッチSW5-2により、室内No.を重複しないように設定してください。
- ④右図のように室外ユニットが複数台の場合でもリモコン複数台制御可能です。

複数リモコン使用時の親子設定

室内1台（又は1グループ）に対して、最大2個までリモコンを接続できます。後操作優先で運転します。
ワイヤードリモコン2台、あるいはワイヤードリモコン＋ワイヤレスキット、あるいはワイヤレスキット2台のいずれかの組合せができます。
1個を「親」に、残りを「子」に設定してください。
○注意 リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。

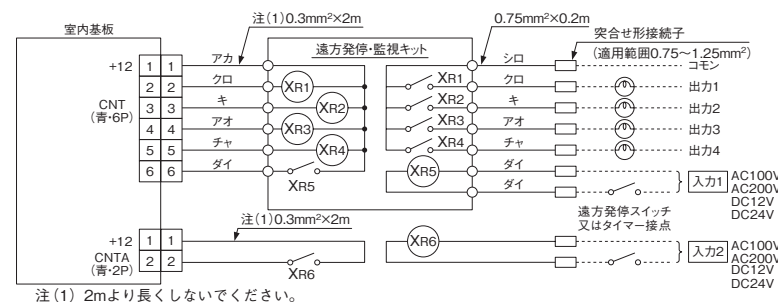


③リモコンからの操作・確認方法

No.	項目	eco タッチリモコンから操作 (RC-DX シリーズ)	標準リモコンから操作 (RC-D シリーズ)
1	リモコン系統内の接続ユニットの接続台数確認方法	[メニュー]⇒[サービス設定]⇒[サービス・メンテナンス]⇒[サービスパスワード]⇒[エアコン No. 表示]	① エアコン No. を押してください。 ② ▲ボタンで室内ユニットのアドレスを1台ずつ確認してください。
2	リモコン系統内の接続室内ユニットの接続確認方法	[メニュー]⇒[サービス設定]⇒[サービス・メンテナンス]⇒[サービスパスワード]⇒[エアコン No. 表示]⇒[個別送風運転]	① エアコン No. を押してください。 ② ▲ボタンで室内ユニットのアドレスを選択してください。 ③ [運転切換]を押してください。送風運転します。
3	親子リモコン設定	[メニュー]⇒[サービス設定]⇒[リモコン設定]⇒[サービスパスワード]⇒[リモコン親子設定]	子リモコン切換スイッチ (SW1) を「子」に設定してください。
4	運転データの確認方法	[メニュー]⇒[サービス設定]⇒[サービス・メンテナンス]⇒[サービスパスワード]⇒[運転データ表示]	[点検]⇒運転データ表示▼⇒[セット]⇒データ確認中⇒室内機選択⇒▲▼ボタンで接続されている室内アドレスを1台選択⇒[セット]⇒データ確認中⇒▲▼データ選択
5	点検表示の確認方法	[メニュー]⇒[サービス設定]⇒[サービス・メンテナンス]⇒[サービスパスワード]⇒[点検表示]	[点検]⇒運転データ表示▼⇒[▼]⇒エラーデータ表示▲⇒[セット]⇒データ確認中⇒データ表示
6	リモコンからの冷房試運転方法	[メニュー]⇒[サービス設定]⇒[据付設定]⇒[サービスパスワード]⇒[試運転]⇒[冷房試運転]⇒[開始]	① [運転/停止] を押し、運転させてください。 ② [運転切換] により、「冷房」を選択します。 ③ [試運転] を3秒以上押します。表示が、「冷房試運転▼」となります。 ④ [冷房試運転▼] の表示で、[セット] ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。表示は「冷房試運転」となります。
7	リモコンからドレンポンプ試運転方法	[メニュー]⇒[サービス設定]⇒[据付設定]⇒[サービスパスワード]⇒[試運転]⇒[ドレンポンプ試運転]⇒[運転]	① [運転/停止] を押し、運転させてください。表示が「冷房試運転▼」となります。 ② [▼] を一度押し、「ドレンポンプ運転」を表示させます。 ③ [セット] を押すと、ドレンポンプ運転を開始します。表示:「セットで停止」

リモコン形式の違いにより、メニュー構成が異なる場合があります。リモコン形式が異なる場合は、リモコン付属の据付説明書をご覧ください。

④室内基板CNTコネクタの機能



- X R14は4ピンD C12Vリレー（オムロン製LY2F相当品）
X R56は12C、DC 12 Vまたは100Vリレー（オムロン製品MY 2F相当品）
●CnTコネクタ（現地側）メーカ・形式
コネクタ：モレックス型 5264-06
端 子：モレックス型 5268 3
別売品（PC20M6A043）を準備しておりますのでご利用ください。
※遠方顧客・監視キットを別売品に準備しておりますのでご利用ください。
※本機には、標準で日本語ディスプレイ搭載。英語ディスプレイも選べます。（現地側）メーカ・形式
コネクタ：日本圧着端子JST XFA AP02 E
端 子：日本圧着端子JST XFA -01T-P0.6
別売品（PC20M6A053）を準備しておりますのでご利用ください。

●出力1～4, 入力1・2を下記の項目より自由に選択・設定することができます。
工場出荷時は下記のように設定されています。

① 運転出力	⑧ ファン運転出力3
② 暖房出力	⑨ デフロスト、油戻し出力
③ コンOP 出力	⑩ 換気出力
④ 点検（異常）出力	⑪ ヒータ出力
⑤ 冷房出力	⑫ フリークーリング出力
⑥ ファン運転出力1	⑬ 室内過負荷異常出力
⑦ ファン運転出力2	

① 運転 / 停止	⑤ 設定温度シフト
② 運転許可禁止	⑥ 強制サーモ OFF
③ 緊急停止	⑦ 一時停止
④ 冷房 / 暖房	⑧ 静音モード

CNT-2	出力 1	運転出力	CNT-5	出力 4	点検 (異常) 出力
CNT-3	出力 2	暖房出力	CNT-6	入力 1	運転 / 停止
CNT-4	出力 3	コンプ ON 出力	CNTA	入力 2	運転 / 停止

●設定の方法は技術資料をご覧ください。

⑤リモコンからの操作・設定

〈ecoタッチリモコンの凡例〉

A: eco タッチリモコン付属の取扱説明書を参照ください。

B: eco タッチリモコン付属の据付工事説明書を参照ください。
C: インターネットよりユーティリティソフトを配信中です。

〈標準リモコンの設定操作可否〉

○: eco タッチリモコンと、ほぼ同等の機能設定・操作が可能です。

△：eco タッチリモコンと、類似の機能設定・操作が可能です。
空欄：標準リモコンには、この機能はありません。

設定および表示項目		詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン
1. リモコンネットワーク				
1	複数室内機制御	リモコン 1 台（リモコンネットワーク内）に最大 16 台室内機を接続制御できます。室内機側にアドレスを設定します。		○
2	親子リモコン設定	リモコンネットワーク内に 2 個のリモコン（含むワイヤレスリモコン）を接続できます。片側を「親」とし、片側を「子」として設定します。	B	○
2.TOP 画面・SW 操作				
1	メニュー	制御・設定・詳細設定等の項目を追加します。	A	
2	運転モード	冷房・暖房・送風・自動・除湿を設定します。	A	○
3	設定温度	室温を 0.5℃単位で設定します。	A	○
4	風向	風向を設定します。おまかせ気流の有効／無効を設定します（FDK の場合）。※2	A	△
5	風量	風量を設定します。	A	○
6	タイマー設定	タイマー運転を設定します。	A	○
7	運転／停止 SW	運転を開始します。／停止します。	A	○
8	F1 スイッチ	※1 F1 スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。	A	
9	F2 スイッチ	※1 F2 スイッチの割付られた機能で運転、操作を行います。	A	
10	言語切換	※3 リモコンに表示する言語を選択します。 選択できる言語は下記です。 英語 / 日本語 ドイツ語 / フランス語 / スペイン語 / イタリア語 / オランダ語 / トルコ語 / ポルトガル語 / ロシア語 / ポーランド語 / 中国語	A	
3. 便利機能				
1	フリーフロア設定	各ループの可動範囲（上限位置—下限位置）を設定します。 FDK の場合は左限位置・右限位置も設定します。 ※2	A	
2	エアフレックス（風よけ）設定※1 エアフレックスパネル組合せの場合※3	・詳細設定：各運転モード、各吹出口のエアフレックス（風よけ）機構動作の有効・無効を設定します。 ・ON/OFF 切換：詳細設定で、有効にされている各吹出口のエアフレックス ON/OFF（作動中／停止中）を切換ええます。	A	
3	タイマー設定	時間入タイマー 停止後、運転させたい時間を設定します。 ・1 ～ 12 時間の範囲を 1 時間単位で設定可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
	時間切タイマー	運転後、停止させたい時間を設定します。 ・1 ～ 12 時間の範囲を 1 時間単位で設定可能です。	A	△
	時刻入タイマー	運転開始時刻を設定します。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・1 回のみ／毎日の切換が可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
	時刻切タイマー	運転停止時刻を設定します。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・1 回のみ／毎日の切換が可能です。	A	△
	タイマー設定内容確認	各タイマーの設定内容を一覧できます。	A	
4	おこのみ設定 管理者パスワード	※1 おこのみ設定運転で使用する運転モード、設定温度、風量、風向を設定します。おこのみ設定 1、おこのみ設定 2 のそれぞれに設定が可能です。	A	
5	ウィークリータイマー	1 週間の入タイマーまたは切タイマーを設定します。 ・1 日最大 8 バターンまで設定可能です。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。 ・運転開始時の運転モード・設定温度・風量を設定できます。	A	△
6	るす番運転 管理者パスワード	お部屋を留守にするとき、お部屋は著しく高温／低温にならないように温度を保ちます。 ・外温と制御温度により冷房／暖房を行います。 ・設定温度、風量の設定が可能です。	A	
7	換気 換気機器組合せの場合	換気の ON/OFF 操作を行います。 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [リモコン設定] ⇒ [換気設定] の設定が必要です。 ・換気設定を「単独操作」に設定した場合、換気機器の運転／停止ができます。	A	○

※ 1: RC-DX2 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 3: RC-DX3A 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 2: RC-DX3 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 4: 標準リモコンには、この機能はありません。

⑤リモコンからの操作・設定（つづき）

設定および表示項目		詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン
8	言語切換設定	リモコンに表示する言語を選択します。 ・選択できる言語は下記です。 英語 / 日本語 ドイツ語 / フランス語 / スペイン語 / イタリア語 / オランダ語 / トルコ語 / ポルトガル語 / ロシア語 / ポーランド語 / 中国語 ※2	A	
9	室外静音設定 ※ 3	室外ユニットの静音性を優先して運転します。 ・室外静音運転の開始・停止を設定します。	A	
10	見てみて	室内温度、室外温度、運転時間、消費電力量を表示します。 ・室内ユニット-室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。	A	
11	消費電力量表示	今日、今週、今年の消費電力量をグラフで表示します。 昨日、先週、昨年と比較することができます。 ・室内ユニット-室外ユニットの組合せによっては表示できない場合があります。	A	
4. 省エネ設定		管理者パスワード		
1	切忘れ防止タイマー	運転を開始してから停止するまでの時間を設定します。 ・設定時間は 30 ～ 240 分 (10 分単位) まで選択可能です。 ・設定「有効」の場合、毎回、タイマーが作動します。	A	△
2	ピークカットタイマー	能力を制限する運転の開始時刻と停止時刻、能力制限率を設定します。 ・1 日最大 4 パターンまで設定可能です。 ・設定時刻は 5 分単位で設定可能です。 ・能力制限率は 0.40 ～ 80% (20% 単位) から選択可能です。 ・祭日および臨時休業など、休日設定が可能です。	A	
3	設定温度自動復帰	設定時刻後に設定した温度に戻ります。 ・暖房モード / 冷房モード他、各々設定可能です。 ・設定時間は 30 ～ 120 分 (10 分単位) まで設定可能です。 ・設定時刻は 10 分単位で設定可能です。	A	△
4	人感センサ制御 ※ 1	人感センサを使用する場合、パワーコントロールとオートオフの有効 / 無効を設定します。	A	
人感センサ付パネル組合せの場合				
5. お手入れ				
1	フィルタサインリセット	フィルタサインの解除を行います。	A	
	次回清掃日の設定	次回清掃日の設定を行います。	A	
2	グリル昇降	ラクリーナパネル制御 ラクリーナパネル組合せの場合 ラクリーナパネル グリルの昇降操作をします。 [メニュー] ⇒ [サービス設定] ⇒ [据付設定] ⇒ [グリル昇降操作] の設定が必要です。	A	○
	降下長設定	グリル昇降長さを設定します。 ・0.1 ～ 4.0 m の範囲で設定できます。 ・設定長さは 0.1 m 単位で設定可能です。 ・接続室内ユニット毎に設定できます。	A	○
	管理者パスワード			
	ダスト回収リセット お掃除パネル組合せの場合	ダスト回収後にダスト回収タイマーをリセットします。	A	
3	お掃除パネル設定	お掃除自動設定 自動清掃の有効 / 休止を設定します。	A	
	管理者パスワード	清掃時間帯設定 自動清掃を開始する時間帯を設定します。	A	
		清掃間隔設定 自動清掃する最小の間隔を設定します。	A	
		ダスト回収設定 ダストの回収時期を設定します。	A	
		ブラシ清掃回数設定 ブラシの清掃回数を設定します。	A	
6. ユーザ設定				
1	初期設定	時刻設定 現在の日付・時刻を設定及び修正を行います。 ・80 時間以内の停電の場合、内蔵バックアップ電源の働きにより時計は動き続けます。	A	△
		時刻表示設定 時刻表示のあり／なし、12 H / 24 H、AM/PM 位置、を設定します。	A	
		サマータイム補正 現在時刻に対し、+ 1 時間の補正を行います。	A	
		コントラスト調整 液晶の濃度の調整を行います。	A	
		バックライト バックライトの有効 / 無効、点灯時間を設定します。	A	
		ブザー音 タッチパネル操作時のブザー音のあり／なしを設定します。	A	
		運転ランプ輝度 ※ 1 運転ランプの輝度の調整を行います。	A	

※ 1: RC-DX2 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 2: RC-DX3 以前のリモコンには、この機能はありません。

※ 3: RC-DX3A 以前のリモコンには、この機能はありません。
 ※ 4: 標準リモコンには、この機能はありません。

⑤リモコンからの操作・設定（つづき）

設定および表示項目		詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン
2	管理者設定	操作制限設定		
	管理者パスワード	<ul style="list-style-type: none"> ・ 操作の許可 / 禁止を設定します。 [運転 / 停止] [設定温度切換] [運転モード切換] [風向切換] [風量切換] [ハイパワー運転] [省エネ運転] [見てみて] [タイマー設定] [消費電力量表示] ※ 1 ※ 4 ・ 操作時の管理者パスワード要求を設定します。 [フリーフロー設定] [グリル降下長設定] [ウィークリータイマー設定] [言語切換設定] [ドラフト防止設定] ※ 1 ※ 4 	A	△
	室外静音タイマー	室外ユニットの静音性を優先して運転する時間帯を設定します。 ・ 静音運転開始時刻と終了時刻を設定可能です。 ・ 設定時刻は 5 分単位で設定可能です。	A	△
	設定温度範囲	設定温度範囲を制限します。 ・ 運転モードによる温度範囲の制限が可能です。	A	△
	温度設定刻み切換	設定温度の刻み (0.5℃ / 1.0℃) を設定します。	A	
	設定温度表示切換	設定温度の表示の仕方を切り換えます。	A	
	リモコン表示設定	リモコン名称、室内ユニット名称を登録します。 室温表示のあり / なしを設定します。 点検コード、暖房準備、除霜運転中、自動冷暖の表示、リモコン・室温・ 外温表示のあり / なしを設定します。	A	△
	管理者パスワード変更	管理者パスワードの変更を行います。	A	
		管理者パスワードのリセットを行います。	B	
	スイッチ機能変更※1	F1、F2 スイッチの機能を設定します。 設定できる機能 [エアフレックス ON/OFF] ※ 3 [ハイパワー運転] [省エネ運転] [室外静音制御] [るす番運転] [おこのみ設定運転 1] [おこのみ設定運転 2] [フィルタサインリセット] [グリル昇降] [消費電力量表示]	A	
7.	サービス設定			
1	据付設定	据付日登録		B
	サービスパスワード	サービス情報入力 リモコンに連絡先を登録することができます。 ・ 連絡先を半角 26 文字相当以内で登録できます。 ・ 連絡先 TEL 番号を 13 文字以内で登録できます。	B	
		試運転		
		冷房試運転	設定 5℃ 30 分間運転します。	B △
		ドレンポンプ試運転	ドレンポンプのみを運転します。	
		フィルタ清掃	ブラシ清掃運転します。 お掃除パネル組合せの場合	B
		ダクト静圧補正	機外静圧補正機能付ダクト形室内ユニット組合せの場合に操作できます。 ・ 接続室内ユニット毎に個別に設定できます。	B
		自動アドレス変更	個別発着マルチシリーズ自動アドレス番号を変更することができます。	B △
		親室内機アドレス設定	個別発着マルチシリーズ 設定された親ユニットのみ運転モード変更を許可し、親を設定したユニットは親ユニットから送られた運転モードに従って運転します。	B △
		バックアップ制御	1 台のリモコンに室内ユニット 2 台 (2 グループ) は接続されている時にローテーション運転、キャパシティバックアップ運転、フォルトバックアップ運転の有効 / 無効が設定できます。	B
		人感センサ設定 ※ 1 人感センサ付パネルの組合せの場合	リモコンに接続された室内機の人感センサ検知の有効 / 無効を設定します。 無効の場合は、省エネ設定の人感センサ制御を行うことができません。	B
		グリル昇降操作	ラクリーナパネル操作を有効に設定します。 ラクリーナパネル組合せの場合	B ○

⑤リモコンからの操作・設定（つづき）

設定および表示項目		詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン
2 リモコン設定 サービスパスワード	リモコン親子設定	リモコン親子設定の変更ができます。	B	○
	吸込センサー制御	1 台のリモコンに複数室内ユニットが接続されている場合、サーモ判定に用いる吸込センサーを選択できます。 ・個別／親機／平均の選択が可能です。	B	
	リモコンセンサー	リモコンセンサーに切り替えるモードを設定できます。 冷房／暖房で切替可能です。	B	△
	リモコンセンサー補正	リモコンセンサー検知温度を補正できます。 冷房／暖房 別々に補正可能です。	B	△
	運転モード選択	各運転モード毎に有効／無効を設定できます。	B	△
	設定温度単位	設定温度の単位を設定します。 ・℃／ℱの選択が可能です。	B	
	ファン速度	ファン速度の選択が可能です。	B	○
	外部入力設定	1 つのリモコンに複数室内ユニットが接続された場合、CnT 入力の適用範囲が設定されます。	B	○
	上下ルーバ制御	上下ルーバの [4 位置停止] ／ [フリー停止] の切換ができます。	B	○
	左右ルーバ制御 ※ 2	左右ルーバの [固定位置停止] ／ [フリー停止] の切換ができます。	B	
	換気設定	換気ユニット組合せ制御が設定できます。	B	○
	停電補償	停電復帰した場合の制御内容を設定できます。	B	○
	設定温度自動設定	設定温度自動の有効／無効を選択できます。	B	
	風量自動設定	風量自動の有効／無効を選択できます。	B	
3 室内設定 サービスパスワード	風速設定	室内ユニットの風量タップを設定します。	B	○
	フィルターサイン	フィルターサイン点灯タイマーの設定が換えられます。	B	○
	外部入力 1 設定	外部入力 1 の制御内容を換えられます。	B	○
	外部入力 1 方式切換	外部入力 1 の信号方式を換えられます。	B	○
	外部入力 2 設定	外部入力 2 の制御内容を換えられます。	B	
	外部入力 2 方式切換	外部入力 2 の信号方式を換えられます。	B	
	暖房室温補正	暖房サーモ判定値を 0 ～ +3℃の範囲で補正できます。	B	△
	吸込温度補正	吸込センサー検知温度を± 2℃の範囲で補正できます。	B	△
	冷房ファン制御	冷房サーモ OFF 時のファン制御を変更できます。	B	○
	暖房ファン制御	暖房サーモ OFF 時のファン制御を変更できます。	B	○
	フロスト防止温度	冷房中室内ユニットの凍結防止制御の判定温度を変更できます。	B	○
	フロスト防止制御	冷房中室内ユニットの凍結防止制御作動後のファンタップアップを変更できます。	B	○
	ドレンポンプ運転	冷房・除湿以外の運転モードでのドレンポンプ運転範囲を設定できます。	B	○
	冷房ファン残留運転	冷房停止・冷房サーモ OFF 後のファン残留運転を設定できます。	B	○
	暖房ファン残留運転	暖房停止・暖房サーモ OFF 後のファン残留運転を設定できます。	B	○
	暖房ファン間欠	暖房停止・暖房サーモ OFF ファン残留運転後のファン運転を設定できます。	B	○
	送風サーモ運転	送風時のサーキュレタ運転を設定できます。	B	
	外調機設定	マルチユニット外調機単独運転時の圧力制御を変更できます。	B	
	運転モード自動設定	運転モード自動判定方法を 3 種類から選択できます。	B	
	サーモ判定切換	サーモ判定を室外温度で補正することができます。	B	
	風量自動切換	風量自動運転における自動切換範囲を設定できます。	B	
	室内過負荷アラーム	運転開始 30 分後、設定温度と吸込温度の差が過負荷アラームで設定した温度差以上ある場合、外部出力（CNT-5）から過負荷アラーム信号を送信します。	B	
	外部出力設定 ※ 1	外部出力 1 ～ 4 に割り当てる機能を換えられます。	B	

※ 1：RC-DX2 以前のリモコンには、この機能はありません。 ※ 3：RC-DX3A 以前のリモコンには、この機能はありません。
※ 2：RC-DX3 以前のリモコンには、この機能はありません。 ※ 4：標準リモコンには、この機能はありません。

⑤リモコンからの操作・設定（つづき）

設定および表示項目		詳細内容	eco タッチ	標準 リモコン
4 サービス・メンテナンス サービスパスワード	エアコンNo. 表示	リモコン 1 台に 16 台の室内ユニットを接続できます。個別送風運転で確認できます。	B	○
	次回点検日	次回の点検日を登録することができます。点検日に連絡先の表示をします。	A B	○
	運転データ表示	室内ユニット＋室外ユニットの運転データをモニターすることができます。	B	○
	点検表示			
	異常履歴表示	過去の異常履歴（点検コード・発生時間）を表示します。	B	△
	異常時運転データ表示	直前の異常発生時の運転データを表示します。		
	異常時運転データ消去	異常時運転データが消去されます。		
	定期点検リセット	定期点検タイマーをリセットします。		
	室内設定保存	接続室内ユニット基板設定内容をリモコンへバックアップすることができます。	B	
	特殊操作	[室内アドレス消去][CPU リセット] [初期化設定][タッチパネル調整] の操作ができます。	B	△
	室内機容量表示 ※ 1	リモコンに接続されている室内アドレス番号とその容量を表示します。	B	
8. 困ったときは・・・		お掃除パネルの詳細点検操作ができます。	B	○
1 連絡先表示		登録した連絡先・TEL 番号、サービスフロントセンターフリーコールを表示します。 QR コードでインターネット接続⇒点検コード内容を検索できます。	A	
2 サービスを依頼される前に Q & A		Q & Aが表示されます。	A	
9. 点検表示				
点検表示確認		異常発生時の表示	A	△
10. パソコン接続				
USB 接続		ウィークリータイマー設定他、パソコンから一括設定ができます。	C	

◆組合せ室内・室外ユニットの仕様により、本内容が機能しない場合もあります。